臺灣日日新報
本日八頁

大元帥陛下親臨の下 陸軍始觀兵式の盛儀

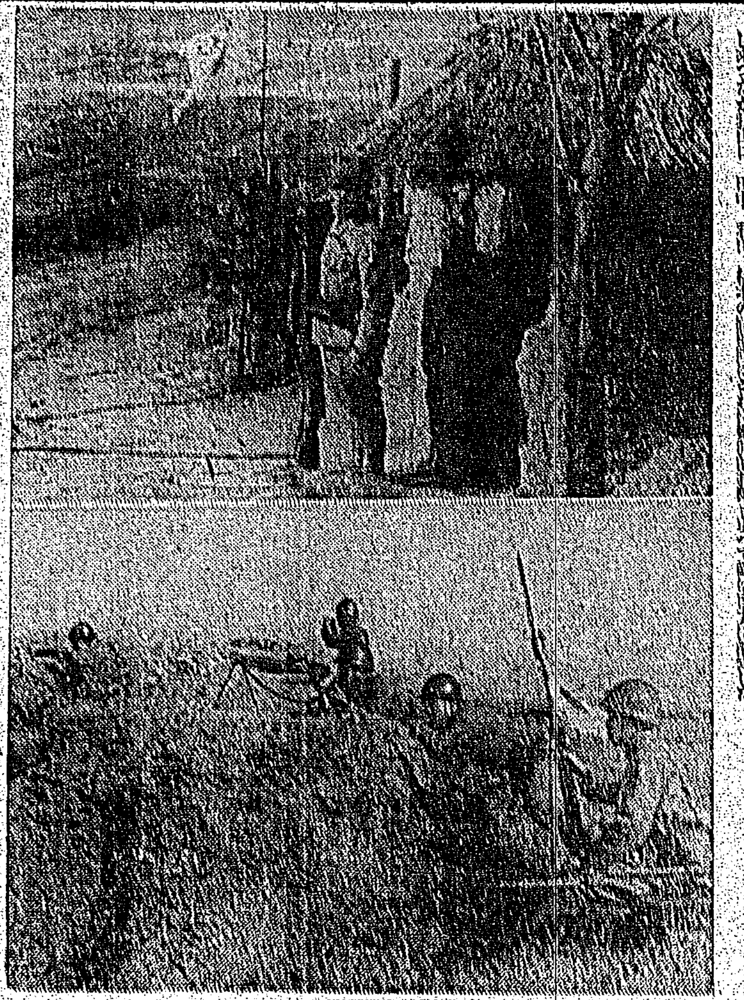
陸鷲四百機戰車七十臺も參加

[illegible]

晉南地區に殲滅戰

敵小癪にも正月攻勢を企圖

[illegible]


極寒・嚴たる皇軍 【上】[illegible] 【下】[illegible]

日佛印第一回會談に兩國代表の握手
右松宮大使、左ロバン特派使節團長

事變完遂を期す

[illegible] 嶋田繁太郎

この秋 [illegible]

帝國が [illegible]

君國の [illegible]

今や [illegible]

完成 [illegible]

發展 [illegible]

米官邊の示唆

貨物船の對英貸與に就いて

【ワシントン二日發同盟】[illegible]

生絲へ懲罰的課稅否決さる

[illegible]

大訓に率由して協心時艱を克服

文部大臣 橋田邦彥

[illegible]

「古今ニ通シテ謬ラス之ヲ中外ニ施シテ悖ラス」[illegible]

支那四億の民衆と提携友好が不可缺

支那派遣軍報道部長 今井武夫

[illegible]

新生 [illegible]

海南島に於ける十二月中の戰果

【海口三日發同盟】南支艦隊報道部發表＝十二月中の主なる戰果左の如し

[illegible]

わが方の損害極めて輕微なり

華北豫算二億一千九百萬元と決定

[illegible]

人事

[illegible]

日、獨、伊樞軸と極東戰線の戰略

伊太利軍事評論家 マリオ・アペリウス

[illegible]

東亞生命線の意義

[illegible]

日本の對米・ソ關係

[illegible]

英は日本の敵に非ず

日本は英國に對して戰略上絶對[illegible]地位にある、[illegible]の一切の[illegible]を絶つた、その上香港は日本艦隊によつて完全に包圍されてゐるのである、然も日本は何時でも香港を占領することが可能である、ニユーギネア、ビスマルク、ソロモン諸島、ギルバート、エブリデ・エリス及フイギー等の諸島の英國海軍による防備は極めて脆弱であり、彼等の運命はカロリン及マーシヤルの海上を支配する日本海軍の手中に握られてゐる狀態である。

英政府は、地中海及北海の不利なる情勢によつて生じた此の悲しむべき地位を[illegible]せんがためにカナダ及アンテレ諸島に於ける米國との協定をシンガポール、ボルネオ、蘭印東印度にまで擴張せんと希望してゐる。

[illegible]に於ては英國は陸軍、海軍何れに於ても最早日本の敵ではない。從つて英國は日本に對して兜を脱ぐより他はない。

米の對日作戰は？

戰略的觀點より見るとき日本と米國とは互に攻擊し得ざる理想的位置にある。二者の何れが攻擊するとしてもそれは必然に他方の戰略上の[illegible]を意味するのである。[illegible]の海上近く艦隊を進めると云ふ事は實に重大なる意味を有するのであるが、一朝事あると、米國は日本にての手近の[illegible]としてヒリッピン諸島を選ばざるの不利益を有する[illegible]國が互に相手國內に有する權益に關しては米國內に於ける日本のそれと、日本、滿洲國、支那に於ける米國のそれが相等しい故に、それ等の權益を失ふことによる損失は兩國も相等しいと說く者もあるのである。

從來日本に對する戰略上の[illegible]を強化せんとする米國の凡ゆる努力は直ちに日本によつて相殺されて來たのである、共に過去三ケ年に[illegible]海南島の占領、支那海岸の封鎖及トンキン灣の確保による日本海、空軍の[illegible]は極めて[illegible]なるものがあり、米國が日本に對し如何に有效な海空軍の行動をとるにしても、蘭印及英吉利との共同作戰をとるに非ざればそれは徒らに危險を意味するに過ぎない。

ここに於て只シンガポール、蘭印及ヒリッピンの完全なる[illegible]のみが米國艦隊に對し支那海からトンキン灣まで進出せる日本の南進[illegible]に備へるため、その根據地となり得るのである、曾つてフランクリン・ルーズベルトが豫言せる如く、[illegible]

[illegible]米國艦隊が一旦日本艦隊と衝突する時には彼等の根據地はハワイを出て何處へ行くか、否、バタビイアか、否、ヒリッピンと[illegible]米國艦隊にとつて唯一の根據地となり得るのである。

伊空軍一部歸還

在獨占領地內から

【ローマ二日發同盟】ギリシヤ並に北アフリカ戰線の戰況に鑑み[illegible]はドイツ占領地にあつて對英空襲に參加しつつあるイタリア空軍部隊を本國に歸還せしめると同時にドイツ空軍の一部をイタリア基地に移駐せしめ地中海作戰に協力せしめることとなりブリコロ、イタリア空軍總司令は二日[illegible]將兵に對し[illegible]將兵との緊密な協力を命じた

陳駐獨大使空路歸還

【ベルリン二日發同盟】二日のD・N・B通信に依れば[illegible]大使陳介は舊臘二十一日ベルリンを[illegible]

ペン技術者養成

短期（四ケ月）養成・獨特通信教授
編輯科 一〇〇名 創作科 八〇名
速記科 一〇〇名 簿記科 一五〇名
映畫脚本科 五〇名 [illegible] 一二〇名
製圖科 一二〇名 [illegible] 一〇〇名
入所資格 男女年齡不問（地方可）
授業料 [illegible]
申込方法 [illegible]
特典 修了者は試驗の上當研究所[illegible]

東京市[illegible]
ペン科學研究所附屬
ペン技術者養成所

賀正
皇紀二千六百一年元旦
電球も產業戰に於ける武器だ！
目標によつて武器を撰ばう！
マツダ
生產能率の增加には良質電球を
節電には二重コイル線條電球を
マツダランプ
東京芝浦電氣株式會社 マツダ支社
★國を護つた傷兵護れ★
マツダ告知の店
A—20

簡素美を
おすゝめする譯

「私は銃後の女性よ」とおつしやりたいのなら、みだしなみを辿りとしたお化粧や服裝は、先づ止めて戴きたいもの！ 緊迫してゐる時代への認識と共に、品位向上のためにもお肌の色黒、ニキビ、肌アレの類は、科學的に美白力、殺菌力の強いコロイド硫黃を應用した……レオンの洗顏で素肌から色白く美しくして時節向の簡素化粧を致しませう。

レオン洗顏クリーム
定價・一圓五十錢 小罐★全國の百貨店・化粧品店にあり

南洋問題の解決 ①

大東亞共榮圏の具現

飯泉良三

南洋を繞る太平洋時代の實現

二十世紀は太平洋の時代なりとは、大分久しき以前より唱へられ來つたのであるが、今や正に、その言葉通り、太平洋時代が實現されんとしつつある

十九世紀の末葉より、我國は日清日露の戰役を通じて絶えず進展を遂げ、米國は我國に劣らぬ躍進を遂げて、ハワイ、グアム及びフイリッピンなどの太平洋諸島を併有し、佛國また佛領印度支那を領有するに至り、更に第一次世界大戰によつて我國は更に飛躍し、米國は一躍して世界經濟の大成金となり、ソ聯は革命に成功して新興なる活動を始め、老大國支那さへも國民政府を强化するなど、太平洋諸國は實に目ざましき發展振りであつた、そこへまた、今次の支那事變や第二次ヨーロッパ大戰は、また、日ソ米の三國を驅つて世界の大舞臺の主役者たらしめ、この太平洋時代の實現に、更に大なる拍車を掛けつつある

然るに、南洋は、何人も知る如く、太平洋の中心に當る熱帶圏内に於て、赤道の南北に散在する大小無數の島嶼と半島であるが、四百四十萬平方キロの面積（我國の七倍強に當る）と、一億二千五百萬の人口とを有する熱帶地域で、しかも、世界無比の大資源とよく發達せる熱帶產業と、更にまた工業製品の世界稀に見る好消費市場とを有するがため、その重要なる資源と物產と市場を繞つて、ここに列國の相剋熾烈なる經濟的戰略的競爭が展開され從來その名の如く太平無事であつた太平洋にも、時に或は大なる風波を捲き起すやも圖り難しとは、列國識者の憂慮する所である

無限の資源と熱帶產業の偉觀

[illegible]によつて、全南洋に於ける輸出貿易を見るに、全世界のそれに比較すれば、何れも僅に一割内外に當るに過ぎないのであるが、[illegible]一九二六年の輸出額は四十億圓（その年の平均爲替相場による邦貨換算以下全部同じ）最も少い一九三二年には十七億八千萬圓また最近の一九三六年には四十二億九千萬圓、一九三七年には五十五億二千萬圓、一九三八年には四十億八千萬圓の多きに達した

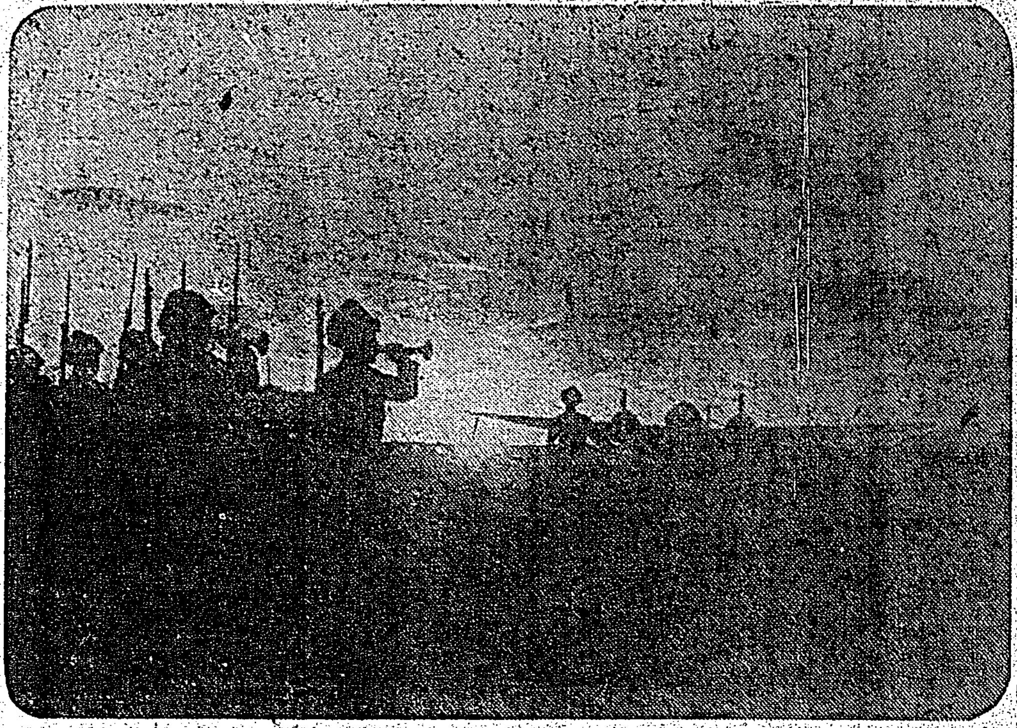
しかしその輸出物資は、世界總需要の九割一分以上を此の地方に生產するゴムや、九割五分以上の規那や、八割內外のカポック、七割內外のマニラ麻を始めとし、錫、米、茶、珈琲、煙草、椰子、玉蜀黍、ステッククラツク、シトロネラ、サゴ、タピオカ、ラワンその他名も知られぬ熱帶植物、[illegible]林產物、世界全[illegible]を此の地方に生產する錫や、將來大に增產を期待されてゐる石油や、鐵、石炭、ボーキサイト、マンガン、タングステンやその他金、銀、銅、亞鉛、ニツケル、クローム、ダイヤモンドなどの鑛產物や、諸種の魚類、貝類、眞珠貝、工業鹽、海草その他の諸海產物など、實に人類生活に必要缺くべからざる多種多量の物資を生產して、之を廣く海外諸國に輸出し供給して、全く世界の文化に貢獻し諸民族の經濟生活を助け、以て眞に[illegible]る熱帶產業の偉觀を全世界に輝かしつつある

斯くの如く、南洋の自然資源は他の熱帶地のそれに比較すると[illegible]を遂げてゐるのであるが、然らば南洋の資源は已に開發し盡されたかといへば、開發されたのはほんのその一小部分のみで、地上の資源はその可能地の僅に三割內外に過ぎぬジャバを除ける諸地方の大部分、ニューギニアの殆ど全部は太古の姿その儘に放置されてゐる、また、地下や海中の資源に至つては、唯その一小部分の開發に過ぎされたのである、現在發見された資源はなほ無限なりといひ得るであらう、如何にその資源の大なるかが想像される譯である

世界稀に見る工業製品の好市場

南洋に於ける自然資源の開發は以上の如くなるに反し、尤もジャバだけは、住民も世界最高の人口密度を有し土地も殆ど開拓し盡されて、已に自然經濟時代より工業時代に推移してゐるので、蘭印政府に於ては諸種の保護獎勵や助成策を講じて大に工業を振興助長してゐるため、セメント、ビール、紙類、陶器工業など、多少勃興の兆を見せてはゐるがそれでもなほ、最近一ケ年の全工業品の輸入額は[illegible]內外で、[illegible]の多くの製品はこれを外國よりの輸入に俟たねばならぬ狀態である、況して、他の南洋各地には未だ殆ど工業と見る程の工業はないのである、[illegible]地方なりとはいへ、一億二千五百萬の人口を擁し、また[illegible]文化生活を營ましてしつつあるので各種各樣の物資を必要とするのは當然であり、[illegible]府の所要品や、[illegible]日常用品より機械類などの高級品に至るまで、工業製品は總てその大部分を[illegible]ならぬのである、さうして[illegible]といふべきである

[illegible]



大陸に初日の出　○○陸軍基地に於て宮城遙拜式

世界的課題を以て新春・日本は突進

興亞會政策局長經濟學博士　太田正孝

（一）

いま世界に二つの戰爭がある、東洋における支那事變と、ヨーロッパにおけるドイツ、イタリアを主とするもののイギリスとの戰爭である、二つとも現狀を維持せんとするものに對し、これを打破して新しい秩序を打ち建てんとするものの爭ひである、その意味において、所を異にしてゐる事變は、本質的に見て一つに集約し得る、戰爭の形としても、一つにして戰ひつつ目標を達し得る可能性があるといつていい、日獨伊同盟の結ばれた所以もそこにあるといつていい、その後これに加盟したハンガリーやルーマニアも、同じ意圖をもつものであり、とくにルーマニアの如き世界戰爭以來イギリス系に屬してゐたものの參加は、それだけにてイギリス勢力を[illegible]ひつけてゐるといひ得る

それはさておいて、世界の新秩序はどんな形において完成されるであらうか、われらは、進んで「新秩序を作せしめ」ねばならぬ日獨伊同盟の生れた[illegible]を[illegible]したい、[illegible]

（二）

しかし、[illegible]四つの[illegible]

[illegible]

（三）

[illegible]

（四）

[illegible]

（五）

[illegible]

（六）

それから米國自體としても、[illegible]モンロー主義なる[illegible]

[illegible]

新外交道の指標

日本外事協會理事　稻原勝治

（一）

世界を擧げて、今、[illegible]新秩序であり、內において新體制があり、外において新秩序がある、これを綜合すれば、人類は、今や歷史の大轉換の上に立つてゐるものの如く[illegible]

（二）

[illegible]

（三）

日本の[illegible]

[illegible]

國民の自覺に俟つ

世界の變局と東亞新建設の急務

協力會議議長　末次信正

獨伊樞軸はソ聯を除き歐洲の殆ど全部を支配しつつある、やがて地中海がその支配に歸し、近東、エジプト、アフリカ北部一帶がその勢力下に收められることは最早疑ひない、英本土がドイツ軍の占領に歸するか否かは極めて興味ある問題ではあるが、歐洲新秩序の建設に直接決定的の影響を及ぼすものとは思はれない、また東亞に於ては事變既に三年數ケ月に及び、蔣介石政權は[illegible]の破綻に近づきつつある、その前途の[illegible]は今や既に明かであり、英米を頼みとしてこの上頑强な抵抗を續けることは、支那民衆の苦しみを增す以外に、何等同國の將來を利するものでなく、この點アメリカが如何なる政策を採るか、またソヴエットの出方如何といふことが注目[illegible]

アメリカがイギリスと[illegible]

その中間にソヴエト聯邦を[illegible]

英米の如き[illegible]

[illegible]

謹賀新體制新春

中川福次郎　臺北龍口町三ノ七

御菓子　梅月堂　臺北市榮町參ノ五　電話貳六四八番

臺北京町二ノ十八　上田屋商店　菅谷武　電話二四三三

員林郡　蕭瀛[illegible]

員林郡米穀納入組合

社頭第二出張所　李俊[illegible]

員林郡社頭庄　金源成商行　李俊[illegible]

員林郡田中街　田川バス　陳步梯　電話二番

員林街　二溪自動車公司　代表者　洪金田

員林郡[illegible]同業組合

永靖消費米組合　組合長　陳[illegible]

員林郡田中街　保坂運送店　電話五番

員林郡　田中庄之助

員林郡　金物陶器商組合　組合長　王有[illegible]

鐘金機

永靖庄家畜市場　獸肉[illegible]　同

大日本航空株式會社　臺北支所
臺北飛行場
臺北營業所
花蓮港出張所
臺東出張所
臺南出張所
臺中出張所
馬公出張所

員林郡永靖庄　芳川惟忠　商號名　陳捷[illegible]

臺灣員林街　臺中州柑橘同業組合

員林郡　保證責任　永靖信用購買販賣利用組合　組合長　陳[illegible]

員林郡社頭庄　保證責任　蕭德仁土地利用販賣購買組合　組合長　蕭[illegible]

員林郡　保證責任　田中信用購買販賣利用組合　組合長　蕭[illegible]

員林郡道路期成會

員林郡馬匹普及會

臺中市初音町三丁目　劉子源畫像館

魏忠材木店　嘉義市

員林郡永靖庄　江東峰祭祀公業

員林郡永靖庄　各種蜜餞製造販賣　陳烈記商會

員林郡社頭庄　蕭積玉株式會社　仕朝勸業株式會社

員林郡醬油漬物豆腐製造販賣組合

臺中州醬油漬物製造業者組合聯合會

員林郡永靖庄　内科小兒科婦人科　永靖醫院

員林郡永靖　内科小兒科外科　長生醫院

三笠バス　林博厚　電話員林五六番

工藝品
高級漆器　文庫、硯箱、菓子器、盆、セット　花器、盆、燈、カフス釦、帶止
宇野仁松作
趣味ノ陶器帶止
眼鏡
ボストン型枠　各種
高級レンズ　各種
鎌野時計舖

南榮教具配給合資會社
代表社員　山下清太郎
本社　臺北市大和町三（電話三〇八六）
黑板部　臺北市新起町二（電話七六五二）
體育器具部　臺北市新起町二（電話二七一四）
圖書教具部　臺北市新起町一（電話五七六七）
廣東出張所　廣東市前鑑分局東華西路十六號

各學校御用達
山下塗板商行　山下清太郎
臺北市新起町二丁目
電話二七一四、七六五二番
振替臺灣三〇六三番

債券株式公債
融金・買賣
（債券・實株利殖案內書贈呈）
富榮證券株式會社
臺北市京町一丁目五十二番地
電話二七三九・四四二四番
振替臺灣八九九〇番

化學工業用藥品
印刷用藥品
銅版用藥品
石版用藥品
鍍金用藥品
オフセット用藥品
寫眞製版用藥品
硝子各種器具
理化學用器具
專門ニ取扱ヒ申居候
臺北郵便局私書函第貳〇七號
臺北市新起町一丁目二十二番地
ヒラノ藥局
藥劑師　平野文男
電話一長　振替臺灣四八六八番　五七八參番　貳參四六番
ヒラノ藥局製劑工場

臺北市大龍峒町貳壹四
臺灣資源保存株式會社
電話三七四五番

嘉義商工會議所
臺南州業態別組合聯合會嘉義支部
嘉義菓子商組合
同　米穀商組合
同　洋裁業組合
同　藥業組合
同　日用雜貨商組合
同　時計商組合
同　電氣ラジオ商組合
同　靴物商組合
同　金物商組合
同　自轉車商組合
同　織物和洋雜貨商組合
同　表具商組合
同　印刻業組合
同　肥料商組合
同　醬油釀造業組合
同　木材商組合
同　木材業組合
同　飲食物販賣業組合
同　麵類製造業組合
同　豆腐製造業組合
同　履物商組合
同　陶器商組合
同　綿布商組合
同　文具書籍商組合
同　和洋雜貨商組合
同　印刷業組合
同　寫眞業組合
同　家具木工[illegible]商組合
同　玩具樂器商組合
同　燃料小賣商組合
同　工藝品商組合
同　蒲鉾製造業組合
同　露店行商自治振興組合
同　冷菓商組合
同　ラムネ同業組合
同　削氷商組合
同　氷類行商組合
同　糖粉雜穀卸商組合
同　西市場飲食物商組合
同　滋養食糧品製造業組合
同　特產物移出商組合
同　市郡日用雜貨卸商組合
同　料理屋飲食店業組合
同　藥品同業組合
同　乳業組合
同　山產物移出商組合
同　水飴製造業組合
同　[illegible]

生產主義原則 日本經濟の前途

新體制下の財政と經濟

一

日本經濟の[illegible]を[illegible]へるには、この經濟を[illegible]する日本經濟の立つ地位を理解せねばならない、即ち[illegible]は現下日本國民の[illegible]な[illegible]に[illegible]へることが出來やう、それは[illegible]の[illegible]を遂行する國民の前途にいかなる難關があらうとも、それは乘り切るよりほかはない、その困難を恐れて逡巡するが如きことなく、斷乎たる決心を以て、困難を克服するよりほかはない、好んで困難を招くのではないが、それを回避しようとすることのみに腐心しても、[illegible]和を既往に引き戻すことは出來ない、戰爭遂行あるのみである

最近 に於て、我々の[illegible]く認識せねばならないことは何か、[illegible]の[illegible]がありながら、それに對する[illegible]又は[illegible]つた[illegible]は、その存立を[illegible]する[illegible]すらないと言ふ事實である、今より[illegible]ヶ月前に世界大強國の一であつたフランスが、[illegible]の[illegible]に陥らうと何人が想像したであらうか、國民經濟の可能性は、高度國防國家の建設に[illegible]努力した國民のみに許されて居る、[illegible]能力の擴大なる國民のみが世界[illegible]を支配しうる、擴大なる[illegible]能力を有し、且つその能力を[illegible]く[illegible]しうる[illegible]へる國のみが、世界に於て[illegible]を有する

然らば、いかにして擴大なる經濟能力が作り出されるか、何よりも先づ[illegible]はずして敵を屈服せしめ得ず、而して[illegible]へば必ず敵を屈服せしめねばならない、その經濟能力を擴大ならしめる方法として、國民經濟力と財政力とを[illegible]せねばならぬ、經濟力は經濟力そのものではないが經濟力の源泉をなして居る、また國民生活を維持する源泉でもある

高度 國防國家の基礎をなし、[illegible]能力の源泉をなすものとして、國民經濟を維持することが必須の要件である

二

日本經濟の現段階に於ては、戰爭を遂行するため、且つ國民經濟力の發展を確保しつつ、すべての經濟力の集中的利用を可能ならしめるに必要なる經濟[illegible]を作り出すことが要請されて居る、即ち國防經濟的完全統制の態勢を作ることが[illegible]の要務である

その經濟力の集中利用に[illegible]なる經濟[illegible]を作り出し、且つそれを遂行せしめる原動力は財政需要である、財政需要は、資金、物資、勞力に對する巨大なる需要となつて現はれる、この財政需要を充たし、且つ國民生活の[illegible]を[illegible]るために、すべての經濟力を直接又は間接に役立たしめるには、強力なる國家の指導統制が加へられねばならない、ここに於て國防經濟[illegible]の[illegible]と、それに[illegible]する指導的[illegible]が行はれねばならないのである

戰爭 需要の增加を原因とする[illegible]の[illegible]化に[illegible]して、供給能力を擴大し、且つその[illegible]を[illegible]化せしめねばならない、若し既に供給能力の擴大が一國の限界に達したるものとすれば、[illegible]の擴大を[illegible]し、その內容の[illegible]を[illegible]せねばならない、供給力を超えた需要が現はれるならば、直ちに[illegible]の[illegible]を出でて、[illegible]する不足となつて現はれるからである

物資供給の源泉を國內生產、輸入、[illegible]等に求めるならば、今後は主としてそのいづれに期待すべきであるか、物資輸入については、米國の對日態度より判斷しても輸入增加の可能性は期待し得ない、國內在庫が增加する理由はない、物資の回收は決して重要なる供給源泉でないとは言へないが、增加する性質のものではない、從つて今後の物資供給の主として待つところは國內生產の增加である

國民 生活の維持に必要とされる物資の國內生產高を現實に增加せしめるところが甚だ多い、[illegible]遂行と[illegible]能力及び技術の進步に[illegible]む[illegible]生產を最大限度に實現せしめる經濟編成に導き、且つこれを發展せしめることが、經濟政策の中心課題である

財政經濟政策の指導原理はいよいよ明確に國防經濟生產主義原則である

三

現に戰爭を遂行するために多量の物資及び勞力を使用しつつ、一方に生產力の發展を圖らねばならないことは、日本經濟の擴大の課題である

一面、完全雇傭の狀態にあるものとして、本年に生產される物資は生產財としてまたは消費財として使用される、消費財の一部は、財政需要に、他の一部は國民生活消費に向けられる、財政需要の增加のために消費財需要の[illegible]を[illegible]せしめて、再生產過程に使用せられるものが[illegible]しく減少すれば縮小再生產の結果となる、その結果を避けようとすれば[illegible]の擴大による生產增加に努力せねばならない、また財政需要の已むを得ざる國家的必要は、國民**消費** の節約部分から分與せねばならない

東亞に於ける日本の支配的勢力に快からざる英米は、日本經濟力の減退を待つて居る、それは[illegible]てチエムバレンの對獨宥和政策の經濟的根據をなすものである、ドイツの大規模の軍備はやがてドイツ經濟力の減退を生ずるであらうから、その間に英佛の軍備を擴充して、やがて[illegible]はずしてもドイツを屈服せしむるに足る勢力の[illegible]的好轉に導くであらうと期待したのである

それと同樣の觀察が米國の對日政策の基調をなして居る、ドイツは英佛の宥和政策の企圖を粉碎した、日本もまた米國の對日政策の企圖を挫折せしめねばならない、日本の**前途** の難關を突破するためには、全經濟能力の源泉たる經濟力の強化を怠つてはならない、國防經濟に於ける生產主義原則を認識すべきである（慶應大學教授高木壽一）

工業臺灣の基礎確立へ

[illegible]時から一應工業の時代を了つた頃迄の本島の工業は殆ど論ずるに足らぬ、即ち明治二十五年の統計の示す處に據れば工產額十九萬圓に過ぎない、それは[illegible]全工業の生產額七千二百九十四萬圓に對比して千分の二にしか當らない

尤も此の僅な工產額は[illegible]、茶、鳳梨罐詰の如き現在に於ても本島產業の主座を占むる特產物を含まない、島內の特產物は原料の方面から見れば農產物であるが大規模な原料加工の工程を經れば所謂食料品工業の範疇に屬する、[illegible]ものとされば是等をも含めて本島[illegible]されたならば約四十年前の十九萬圓に對比して[illegible]ない、併し此の[illegible]萬圓と云ふ數字は特殊物たる食料品工業を含めたものに外ならないので若し夫れ特殊[illegible]二億六千五百萬圓を除外すれば一億[illegible]萬圓に過ぎないが[illegible]の要素を考慮せずに單に金額のみを對比したならば本島の工業も著しい發展を示せるものと思はれる

以上の如き飛躍的數字を示した本島工業の內容に就し更に考察が加へられねばならぬ、約四十年前十九萬圓の數字を示した本島の工產品は殆ど製糖[illegible]等に過ぎぬが大正時代には交通機關の發展に伴つて小規模の機械器具工業が勃興し化學工業も增加し殊に歐洲大戰の刺戟等により拍車を加へられて著しく面目を一新したが、本島工業は依然として製糖乃至農產物加工業に終始したものと云はざるを得ぬ

昭和年代に及んで內地に於ては重化學工業に長足の躍進を示し殊に滿洲國の誕生を契機として昭和七年以降高度國防國家の建設に邁進するに及び各種工業の勃興に伴ふ我國工業の飛躍は周知の通りであるに反し臺灣の工業は日月潭の水力電氣の開發せらるるに至る迄依然として食料品工業の外殆ど見るべきものもなく[illegible]の[illegible]に[illegible]源の姿を[illegible]つて居つたと評せらるるも止むを得まい、併して日月潭の電源開發は工業臺灣の方途を示唆し新興工業臺灣の母胎を築いた點に至つて臺灣は從來の島內特產資源以外に遙に南方の工業資源を島內の各種工業資源と結合して工夫することを謀つたのである、その結果は特殊鋼鐵合金類の生產となつたことは周知の如くである、併し我國の關心が北方に集中せられつつ南支那乃至は南支出身の[illegible]の經濟力に支配せらるる南洋の[illegible]は今日の時局大時期に於ては臺灣を據點として島內の工業條件と南方との連絡結合による新企業は至難視せられたのも止むを得まい、斯かる際に支那事變の擴大と共に南支海南島を視野に入れた臺灣の工業條件が大幅に再檢討せらるるに至つたのは當然の理である

併し事變の長期化と共に資材の不足等に因る企業實現の困難は工[illegible]化が叫ばれ[illegible]に現出せしむるには[illegible]又南支方面に[illegible]知の如く[illegible]であると共に島內の[illegible]の施設、工業[illegible]の前途は固より[illegible]力其の他本島に於ては先づ[illegible]の施設と共に工業發展上必須の基礎工業から打立てて行かねばならぬ、工業臺灣を叫ぶ一人として今此處上の如きことを[illegible]するは[illegible]を買ふ所以かも知れぬが、[illegible]下の時局に[illegible]しつつあつた我々は遂に工業[illegible]の基礎を確立せねばならぬことを[illegible]へながら其の態勢を[illegible]して居つたのである、併し今や年改まるに際し大東亞共榮圈に於ける我が臺灣の本姿を十分認識すると共に臺灣の[illegible]から一躍南方進展の據點と化した本島の使命を深く省察するより北にあらゆる工業立地の[illegible]の上に工業臺灣の基礎を確立せねばならぬ、此一環は臺灣に課せられたる本年の最も重大なる問題として解決に邁進せねばならぬ（總督府商工課長井田憲次）

臺灣糖業の責務

糖聯理事長 藤山愛一郎

支那事變勃發後に於ける我國の國是は東亞共榮圈の確立及高度國防國家の建設であり、大陸に於ける建設的戰爭並に平和的手段に依る經濟建設であつたが、歐洲大戰勃發に於ては、我國策は更に其の步を進め樞軸國の世界政策に對し共同步調を執ることとなつた、茲に於て[illegible]日支、日滿、[illegible]方面との[illegible]的なる各種折衝が昨年[illegible]くして其の緒についたのであるが[illegible]以來の大規模なる國家的[illegible]に對しては國內經濟が如何にも[illegible]たるものであり、之を官界に見るも民間に見るも統制令の[illegible]に終始し、[illegible]的經濟に[illegible]して居た、之即ち[illegible]若くは大[illegible]の[illegible]が叫ばれた所以であると思ふ

經濟の行政的[illegible]及其の方[illegible]、金融及經濟の基本[illegible]並に[illegible]理はこの國是遂行の目的に副ひ根本的に[illegible]を新にすべきものがあると共に、國民生活の樣式も大なる[illegible]更を必要とすることと必至であり、之を實行に移すことと愈々急なるもののありと思ふ

大東亞[illegible]がこの目的遂行に[illegible]する[illegible]となるならば幸である

[illegible]業界に於ける[illegible]は、昨年を通じ[illegible]的な[illegible]に入つた、本年之が[illegible]なる運用と、更に一段の[illegible]を[illegible]する必要がある。即ち生產部門、[illegible]部門の[illegible]なる合理化そである、爪哇糖の日滿支市場に於ける[illegible]も亦我[illegible]の[illegible]なき[illegible]はざる[illegible]である、即ち世界[illegible]の新動向をも[illegible]して、日滿[illegible]の共存共榮と[illegible]の[illegible]を充足せしめる[illegible]が[illegible]者に[illegible]せられたる[illegible]なる[illegible]を[illegible]し之が[illegible]を[illegible]する限りである

[illegible]の根本は[illegible]技術の[illegible]に存するよりも寧ろ生產の[illegible]に存ることは云ふ迄もない。この點で[illegible]業の[illegible]は愈々大なるものありと云はなければならない、從來ともすれば[illegible]は[illegible]なる[illegible]なりとせられ、生產[illegible]、資金[illegible]、林、勞力等の[illegible]は、[illegible]に[illegible]し極めて[illegible]なるものがある。[illegible]が[illegible]物資たる現狀に鑑み、之等の事項も獨自の物動計畫として取扱ひ、飽く迄此方針を遂行すべきものと思ふ

又我々は他の業種に率先して數十年前より業者[illegible]を組織し、直ちに[illegible]經濟の國內に進んで參畫した我々の企業は[illegible]に生產のみに止まらず、[illegible]若くは企業組織の根本に迄及んで居る、即ち經濟統制法の制定を見るも何等[illegible]する[illegible]なくこの組織を國家經濟の一機[illegible]として活用することを可能なりと信じてゐる、この點で[illegible]者各位の今日迄に於ける[illegible]及協力に[illegible]し[illegible]の[illegible]を表すると共に、一[illegible]各位よりの今後の[illegible]を[illegible]んで止まない次第である

△△△△△△ 漁網も國防色

最近の染料入手難に鑑み漁網用代用染料の試驗と同時に漁網の色彩も必ずしも從來の柿色又は黑のみでなくとも漁獲成績を擧げ得るものとなし、最も好成績を擧げ得る色彩につき[illegible]水產試驗場で研究中の所、今日迄の中間發表に依れば昨年[illegible]丸で色彩の異つた秋刀魚流し試驗を行ひ、本年も同樣これを實施しているが昨年の試驗結果では硫酸染を加へたカッチ國防色、黑、茶色、普通カッチの六種の色彩漁網の中で最も優秀な成績を擧げたものは國防色であつた、これは秋刀魚流しが水面から三尋位の比較的上層部で使用された關係もあるが從來漁網の染料は茶色以外は殆ど問題にされなかつた點に鑑みれば畫期的な發見で次位は硫酸染カッチ、茶色、普通カッチ、黑色、黑茶色の順位である

禁制品一部解除

纖維製品の在庫の九割方

物資活用の見地から纖維品中比較的[illegible]に屬らないものに就き當局の許可をうけたものに限り販賣が認められる事になつた事は既報の通りであるが、年末迄に府物價課に申告した纖維製品中纖維製品につき許可を受け得べき見込數量をみるに全島で二十八萬五千七百七十四點、反物で一萬三千五百七十反に達する、之を在庫數量に對比すると約九割である、即ち販賣禁止品として販賣が禁止されるものは一萬二千七百二十八點、二千五百九十反である、又之を各州廳に配れば次の通りである

許可を受け得べき見込數量（點數）

臺北州	一四二、三九七點
新竹州	一九、三一四
臺中州	四八、七六七
臺南州	四八、八七〇
高雄州	一四、七一九
臺東廳	一、三四一
花蓮港廳	八、八〇三
澎湖廳	一、五六三
合計	二八五、七七四

[illegible]纖維品中には婦人服飾品が多いが商工省の關心により此の春には右の如く[illegible]用品等の纖維品が街頭に再び現はれる譯である

皇紀二千六百一年
謹賀
大政翼贊新春

徵兵保險 教育結婚保險
第一徵兵保險株式會社臺灣支部
臺北市京町四丁目一 電話 [illegible]

合資會社 淺沼商會臺北出張所
臺北市京町參丁目壹番地 電話 四九六弐番

臺灣煙草賣捌人組合臺北支部員一同

株式會社 島津製作所 臺北出張所
臺北市本町三丁目一番地 電話 [illegible]

和益鑄造鐵工所
臺北市宮前町四〇四番地 電話 參〇七九番

臺北市材木商協會 協會員一同
臺北市港町 電話 二一五八番

臺灣教材株式會社
臺北市北門町十三番地 電話 [illegible]

大有物產株式會社
臺北市永樂町弐ノ五四 電話 [illegible]

合資會社 西瀛公司
臺北市永樂町弐ノ八七番地 代表社員 盧[illegible]
各種人參 [illegible] 生藥藥材 [illegible]

新興製藥株式會社
臺北市永樂町三ノ三一 電話 五九六〇番

貿易商 廣合洋行本店
臺北市永樂町一丁目四一番地
支店 神戸、上海、[illegible] 電話 [illegible]

臺北市兒玉町三丁目三番地
有限責任 城南信用組合

臺北市千歲町參丁目四拾壹、弐番地
臺灣酸素合名會社 電話 [illegible]

公設 御成町食料品小賣市場 公商會員一同

臺北市表町壹丁目
臺灣コークス株式會社 電話 弐壹壹參番

SANKYO
三共株式會社臺灣出張所
臺北市表町壹丁目參拾弐番地
本社 東京市日本橋區室町

臺北印刻業組合

臺北市醫師會

張東隆殖產株式會社
臺北市太平町二丁目 電話 三五三九・四六七七番

張東隆商事株式會社
臺北市太平町二丁目 電話 [illegible]

有限責任 艋舺信用組合
臺北市有明町弐丁目五番地 電話 參弐六〇番

有限責任 興財信用組合
臺北市壽町參丁目八番地 電話 四〇壹七番

保證責任 萬華信用利用組合
臺北市入船町弐丁目拾六番地 電話 參〇五八番

臺北交通株式會社
臺北市末廣町五丁目七番地 電話 二七一〇・二八四六番

營業種目
內地杉檜 臺灣松杭 床材料 柿式板 其他各種
池山材木店
臺北市末廣町一ノ一七 池山重一 電話 四三五二番
第二木場 錦町四ノ三 電話 七六九一番

臺灣故銅鐵屑統制株式會社
本社 臺北市御成町三丁目十六番地 電話 [illegible]
出張所 基隆市昭和町建六八番地 電話 [illegible]
高雄市入船町三丁目十二番地 電話 二七九五番

臺灣特產 各種纖維取扱
絲紗、麻布、ス・フ入絹布卸及輸出商
株式會社 松本商行
臺北市京町二丁目三十番地 電話 [illegible]
支店 拓殖部 [illegible]

諸織物及同既製品商
株式會社 松本サービスステーション
臺北市京町二丁目 電話 六九〇八番

臺北材木商組合
【順はいろ】
池山材木店
濱崎材木店
龜田材木店
中森材木店
植松材木店
松岡材木店
牧田材木店
兒玉材木店
惠比壽商會
櫻井組材木部
[illegible]臺北支店
三浦材木店

臺北菓子商組合

鐵材商 蔡溪商會
臺北市新起町二ノ二四・二五 電話 二四六二・二八二八番

日本鋪道株式會社

古鐵ウエス商 二葉商店
臺北市中庄子六九番地 山本平吉 電話 [illegible]

臺灣化成工業株式會社

臺北市本町一ノ一七
古河電氣工業株式會社臺北販賣店
富士電機製造株式會社臺北出張所
東亞化學株式會社臺北出張所

臺灣纖維工業株式會社
本店 臺北市大安

杉原產業株式會社

證券引受會社臺灣聯盟
野村證券株式會社臺北支店
藤本ビルブローカー證券株式會社臺北支店
山一證券株式會社臺北支店

臺灣用達株式會社

臺灣故ゴム回收株式會社

臺北市上埤頭一五四
高砂麥酒株式會社

臺灣生命徵兵保險協會

臺灣砂糖卸商組合聯合會

淺野スレート株式會社臺北出張所
臺北市本町三丁目一番地 電話 四一七五番

純國產自動車いすゞ號
東京自動車工業株式會社臺灣出張所
臺北市中崙貳〇〇番地 電話 六參參八番

國產トヨタ自動車一手販賣
自動車、航空機、船舶發動機修理製作
臺灣國產自動車株式會社
本社 臺北市[illegible]
出張所 [illegible]

森永製品臺灣販賣株式會社
本社 臺北市本町二丁目三〇番地
出張所 臺中、高雄、嘉義、臺東
配給所 基隆、宜蘭、花蓮港、新竹、臺南

盛進商行茶舖
東邦拓殖株式會社
本社 臺北市榮町二丁目 電話 四五七四番
支店 厦門市鎮邦路通
農場 臺南州斗六郡斗六

本店 臺北市榮町
株式會社 臺灣銀行
支店
臺灣 基隆、新竹、臺中、彰化、嘉義、臺南、高雄、宜蘭、淡水、桃園、南投、屏東、臺東、花蓮港、澎湖島、梧棲
在外 大連、上海、福州、厦門、汕頭、香港、廣東、マニラ、新嘉坡、スラバヤ、スマラン、バタビヤ、孟買、倫敦、紐育、漢口(駐在)
內地 神戸、大阪、橫濱、東京
中支派遣員 江灣、蘇州、鎮江、南京、蕪湖、安慶、九江、南昌、武昌
海南島派遣員 海口、三亞

株式會社 日本勸業銀行
臺北支店
臺中支店
臺南支店
高雄支店
新竹駐在員事務所

株式會社 華南銀行

資本金 五百萬圓
臺北市大和町四丁目一番地
株式會社 臺灣商工銀行
支店 出張所 [illegible]

資本金 壹億七百貳拾萬圓
諸積立金 四千四百八拾九萬圓
株式會社 三和銀行
大阪市東區今橋
臺北支店（本町二丁目）
臺南支店（本町四丁目）
高雄支店（新濱町一丁目）

臺中市大正町
株式會社 彰化銀行
支店 基隆、臺北、板橋、桃園、新竹、豐原、東勢、南投、埔里、大甲、清水、彰化、鹿港、員林、北斗、嘉義、臺南、高雄
出張所 高雄、草屯

臺北市本町一丁目四三番地
株式會社 臺灣貯蓄銀行
支店 [illegible]
出張所 [illegible]

陣中新聞物語

（上）

大本營陸軍報道部長陸軍大佐　**馬淵逸雄**

この一篇は、支那派遣軍の名報道部長として聞え、今回大本營陸軍報道部長に榮轉した馬淵大佐が、戰線で將兵の心の糧となつた「陣中新聞」の發行に携つた思ひ出をその經驗に綴り、特に本紙のため寄せられたもので、實に興味津々たる戰線插話が語られてゐる（記者）

『長江戰陣譚』の誕生

上海戰の當初、陣中に於てニュースに渇望する兵隊のために、慰安と士氣を鼓舞するため陣中新聞を發行した、これは上海作戰後一ケ月にして發行され、ガリ版から活字となり翌年の八月頃まで續刊された

松井軍司令官は「長江戰陣譚」と命名して、題字を書かれた譯である、報道部員が編輯し、上海の商務印刷所で上梓したが、發行部數も五千部から一萬の多數に上つてゐた、內容は同盟ニュース、投書文藝、それから戰士たよりといつた風のものであつたが、異彩を放つたのは、太田天橋のペン畫と火野葦平の陣歌等であつた、朝日の特派員であつた麻生豊、横山隆一の漫畫家も寄稿してくれたことがある

杭州が占領されてから、同盟の大屋記者がオペレッターの受信するニュースを主體として陣中新聞の發行を建言し、私が贊成して昭和十三年の一月十日頃發行したのが「杭州新報」である、續いて米花少佐が「南京新聞」を發行した「杭州新聞」は「南京新聞」よりは小型であつたが、漫畫など入れて張切つてゐた、同盟の大屋君がニュースを編輯し、加藤、松田の部員と、柳川兵團の下士兵三名で發行した、私が長く杭州に止ることが出來ないので、杭州報道班の仕事の引受として特に牛島兵團の諒解を得て、佐藤旅中尉が報道部に配屬せられた、同中尉は中支校園後の放員で、杭州の歷史地理的記事を連載して大好評を博した、

杭州は風光明媚の地で、屢々西湖の舟遊びをやつた、私を社長格に社員の慰勞宴を張つたものだ、報道部と新聞社の融合したことはこの時ほどはなく、來遊した日名子實三氏が放置庵といふ名前をつけてくれた。元陸軍中將で中山大學の學生監をしてゐた馬將軍の未亡人といふ馬木蘭女史を報知の中山君が發見して、大宅壯一君の司會で座談會をやつたこともあつた

馬木蘭女史は後日、大和撫子であることを打明けたが二重國籍で、內地へは歸國出來ず、柴藤中佐の世話で大民會に働くやうになつた

私が餘り親切にしてやつたので、內地へ歸來に歸つた時、彼女の父母も私宅を來訪して謝辭を述べられた

この頃明日の對戰家隊突わし隊が前線にやつて來た、エンタツアチヤコなど必要以上に歡迎されニュース映畫を上映した、これが慰問團の皮切りであつたと思ふ、錢塘江對岸には敵軍がゐるし、砲火管制がやかましかつたが、杭州の街は不夜城で、柳川將軍の杭州さはこんな所まで及んでゐた、とにかく激戰後の水攻ようしく彼我對峙の際に、私はよく無蓋貨車に乘つては第一線を巡視した、杭州の人間僚上、滯日の倉地君を殘して軍報道部は土橋兵團に依囑して、報道班として私はやがて引揚げた

煙草と兵隊

倉地君はそのまま杭州に居殘り「杭州新報」を創刊した、たしか一枚一圓で杭州一圓に販賣されてゐた

私が南京に赴任する前から、同盟の西島君が陣中新聞の方を同盟とかけ持ちでやつてゐたが、安慶作戰から武漢陷落までその主任者であつた、今迄はただニュースを謄寫するだけであつたが、戰局、外報、支那、內地情報、南京消息といつた具合に謄寫を整理し、下士官一名、兵二名を使つて編輯してゐた

配置は報道部の一階廣間に各隊の名前を貼出してここに新聞を並べておくと、自動車やオートバイでみんな取りに來たものである、こちらから配達しないのだから樂なもので、このガリ版を印刷してゐるところがニュース映畫に出てそれを見た兵の郷里から喜びの手紙が來たりした、西島君が臨時長の時には瀨戶伍長、郡野上等兵、伊藤上等兵、江崎特務兵などがゐた、この四人がなかなか字が旨くガリ版を上手に刷つた、何しろ上海戰からずつと南京に入城し、報道部に廻されたので皆な元氣者揃ひ、無償のオペレッターを含めてコンパをやるとなかなく愉快であつた

其後、海老原、津賀田、渡邊の三人が一等兵として交代して來た、某等は天城野出身の樸訥な青年で、某等はよいがよく字を知らない、そこで西島君が「いろは」の習字手本を書いて敎へ込むといつた始末、なかなく可愛がつたものである

ある時、机の上にダルハム英國製の粉袋（牛印の袋に入つたもの）があつた、「ハイカラなものを喰ふね」とひやかしたら「これは何でありますか」ときくから「甘ちやないか、お袋がある筈だが」といつたら「これを慰問品に貰つたですが、どうも判らない紙はニッケ紙にハッカをつけた菓子）かと思つてしやぶつて了ひましたが、うまくないです、この袋には牛の繪がついてゐるので、なにか家畜に在る飲し藥かと思つて、今から煮て見ようと思つてゐるところでした」といふ返事に、西島君は「こりやいい」と話を聞きながら頭が下つた。西島君を疑じ樂と思つたりする所に世の中に染まない純眞な日本兵の姿が見出される、このエピソードは林芙美子も何かの雜誌へ書いてゐたが、私も日本兵の良いのはそこにあると思ふ、アメリカの水兵とか陸兵（マリン）などといふ連中は、百弗のサラリーを貰つて高級アパートに支那美人を二、三人も圍つてゐるが、これぢや戰爭にもなるまい

ニュースと兵隊

とにかくガリ版が活字新聞になり、兵士達は大喜びであつた、瀨戶は軍曹、郡野は伍長に昇進したが、江崎特務兵は大別山で惜しいことには戰死した

十一月になつて報道部と中山路の同じ建物にゐた同盟通信が移轉することになり、それを機會に同盟通信が日に三度通信を發行することになつた「南京新聞」はまもなく廢刊され、二百九十二號であつたが、十二月二十一日に津田大佐が「新春と共に大陸新報が國策新聞として創刊され、その南京版が出現するので、本新聞の使命は終つた」と有名な廢刊の辭を書いてゐる

武漢占領後、同盟通信のニュースを主體として、報道部に於てニュース通信を發行し、各部隊に配布した、これは杭州、南京の如に激ずるが第一線部隊の要望が到底ガリ版の印刷程度では間に合はないので思ひ切つて活版印刷の陣中新聞を發行することにした、此の新聞は武漢を中心とする多くの兵團に配布するため「長江戰陣譚」の題號に決したが、更にこれを日刊新聞として、ニュースの外に軍隊將兵の精神の糧となるべき美談、佳話、會報的事項、精神修養となるべき訓話を包含せしめ、第一線より大なる好評を博した

軍司令官岡村寧次大將軍はこれに「總前進」といふ、勇ましい名前をつけて題簽とされた、この新聞は昭和十三年十一月十二日第一號を發刊し、現在な任續刊されつつある、又、九江、安慶等に於ても所在の司令部は同盟通信支局と協力し軍隊新聞「九江新聞」「安慶新聞」等を發行し、その管下の軍隊に配布して士氣を鼓舞してゐる

かく報道部としては兵隊がニュースを最も樂しみとし、且つこれにより士氣を鼓舞すること多きに鑑み、上遞の外各兵團司令部所在地には、同盟通信の特派員を設置し、無線機を準備するやう同盟通信局へ要請した、乃ち同盟ニュースを當該兵團に提供するやう努力したが、古野社長以下現地支局長の支援により、今節之が實現してゐることは、將兵の感謝して措かぬところである

岡村隊長と「總前衛」

今度第二周年の日を迎ふるに當り、些か總前衛の經歷を明らかにしたい

昭和十三年十一月十二日攻略直後に刊行された上記第一號が漢口新聞と呼ばれ、ガリ版手刷り、攻略直後の事ではあり各種の不便が伴つた、紙の不足を補ふに各部から支那紙や、鹵獲品のわら半紙の提供を蒐集し、ガリ版の原紙不足から、明日の發行を隊員君は心配しばしばく野を漁めたこともあつた

隊員達の努力は印刷及び紙、印刷資料の蒐集にまで及び、種々苦心したがよく九百五十部を發行したのであつた、然し乍ら在漢部隊はもとより前線部隊からの要求は、日と共に數を加へガリ版印刷を以てしては到底その要求に應へられざるに至つたのである

そこで昭和十四年四月一日第百四十號を以て、本紙は活字版に改め幾人の未だ文選に馴れざるを督勵し、植字、大組、校正、印刷と多大の努力をつづけ五月頃にはその甲斐あつて四千五百部を發行するに至つた

かくして發行部數の增加と共に本紙の內容も當初よりも擴大強化して陣中新聞の形態を要求せられ、ここに新たなる飛躍の必要に迫られたのである、時恰も岡村部隊長は本紙の有する重大使命を痛感せられ特に「總前進」なる文字を賜られた、第一面右肩に掲げられるのがその題字である、茲に於て從來の題ロ新聞は昭和十四年六月一日、第百九十二號を以て名も總前進と改め今日數萬の部數を日々發刊するに至つたのである

日華親善の春

山里

小說

上林曉

繪　北野萬平

僕がまだ九州のK市の高等學校の生徒であつた時分、或る冬の休みに、友人達四五人と九州縱斷の旅をしたことがあつた、最初の晩は、阿蘇の外輪山を越えて、杖立といふ山の溫泉に泊つた、翌る日は、熊本縣と大分縣の境を越えて、深耶馬溪へ入つて行つた

深耶馬溪の鹿鳴館といふ宿屋で二日目の晩を過し、朝早く耶馬溪の街道に向つて行くと同じ高等學校の生徒が二人、こちらに向つて步いて來るのに出會つた、一人は寮で將棋など指したことのある佐倉君であつた、意外な處で出會つたので、どこへ行くんですかと私は尋ねてみた

「由利君の墓參りに行くんだ、君も行かないですか」と佐倉君は私を誘つた

そのあたりは、由利忠平君の故鄕、大分縣下毛郡山移村だつたのだ

「ぢやア、僕も行くことにしよう」

この機を逸しては、もう二度と由利君の墓に參ることはあるまいと思つたので、私は早速佐倉君達と同道することに決めた、同行の友人たちとは、羅漢寺で落ち合ふことに約束したのである

私と佐倉君達とは、少し後戾りしたところで街道から雜の深い山徑へ入つて行つた、小さな險しい山徑で、葉の落ちた林の間を登つたり、谷川の飛石を渡つたりして、私達は由利君の生れた家を訪ねて行つた、曾て、由利君の故鄕は耶馬溪だとは聞いてゐたが、どんなに山深い田舍だとは、今が今まで想像もしたことがなかつた

私がK市の高等學校へ入つた時寄宿舍で初めて同室となつたのが由利忠平君であつた、寮へ入つた日、私の夜具はまだ郷里から屆いてゐなかつたので、その夜は、初對面の由利君から毛布を借りてその頃受驗の時下宿してゐた町の八百屋から借りて來た布團をかぶつて、初めての旅の夢を結んだのであつた

私達は夕食がすむと、毎晩のやうに連れ立つて、新開地の街路並の列んだ街へ出て行つた、新しい小倉の寫眞館が出來ると、寫眞屋へ行つて記念撮影をした、その時の寫眞は、今でも私の郷里の家に保存してある、眼鏡をかけた由利君が椅子に腰をかけ、私は右腕をうしろに廻して立つてゐる、帽子の徽章も白線も眞新らしい

由利君は街へ出る度に、西田幾多郎の「善の研究」や倉田百三の「愛と認識との出發」などを買つて來て讀み耽んだ、私は小說や戲曲に熱中した

二年になると、二人とも寮を出て、由利君は學校の近くの田舍家に下宿するし、私は古い城の下の町に移つた、私は晝の休みや放課後など、よく由利君の下宿へ遊びに行つた、下宿で筍の菜ばかり出て仕方がないから、和英辭書で筍といふ英語を引いたらCHILD BAMBOOだつたと言つて、由利君が大笑ひをしたこともあつた、のんびりやらで、眼鏡の眼を伏せて靜かに話す由利君だつたが、笑ふ時は大口を開いて笑つた

二年の夏休みが濟んで、二學期が始まつても、由利君は學校へ出て來なかつた、腸チブスで亡くなつたと知らされたのは、それから間もなくであつた、由利君のお父さんが荷物を纏めに來てゐると聞いて、由利君のもとの下宿へ行つた日は、まだ殘暑がきびしかつた

行つて見ると、由利君のお父さんは、腕を枕に寢てゐた、白い脛の中ズボンを出して、向ふ向きに曲つて寢てゐる姿は、遠い道を步いて來て、疲れて寢てゐるひとの姿に似てゐた、身も心も萎えてたのだらう、愛兒が病死した室に來て、机や本箱を見ては、手がつかず、ただもううつらうつらと寐るよりほかなかつたのであらう

そんなことを思ひ出しながら山徑を步いて行くうち、切通しを一つ拔けると、急にかつと打ち開けた枯草原の村里へ出た、陽がいちめんに照り、茅葺きの家が所々にあつて、そこが由利君の故鄕だつた

由利君の生家は、大きな茅葺きの、古い家で柱など黑く光り、陽當りのいい緣側で、猫が一匹寢てゐた、家には年取つたお婆さんが一人ゐて、私たちを見ると、自分の孫の姿を見かけでもしたかの如くよろこんだ、私は寮にゐて、由利君の口から祖母、羅漢寺や青の洞門の話などと一緒に、由利君の故鄕の村のことを聞いたか知れない、お父さんとお母さんとは朝鮮へ行つてゐて、家にはお爺さんとお婆さんとが留守居をしてゐるとも聞かされてゐた、家からは時々小包みなど送つて來たが私が初めて粽といふものを食つたのも、由利君の郷里から來たお土產だつた粽を包んだかぐはしい笹の葉の匂ひはいつまでも忘れられないが、私はいそいそと動くお婆さんの姿を見ると、あの粽もこのお婆さんがつくつたのにちがひないと思つた

その時、家の向かふの森で木を切る音がしてゐて、お婆さんはその方に向つて、二こゑ三こゑ、田舍訛の大きな聲で叫んだ、すると斧の音がやんで、一人の少年がおりて來たそれが由利君の弟だつた

由利君の墓は、家から少し離れた、平たい畠地の枯草の中にあつた、お婆さんと弟とがそこへ連れて行つてくれた、石塔はまだなくて、石が一つ載せてあつた

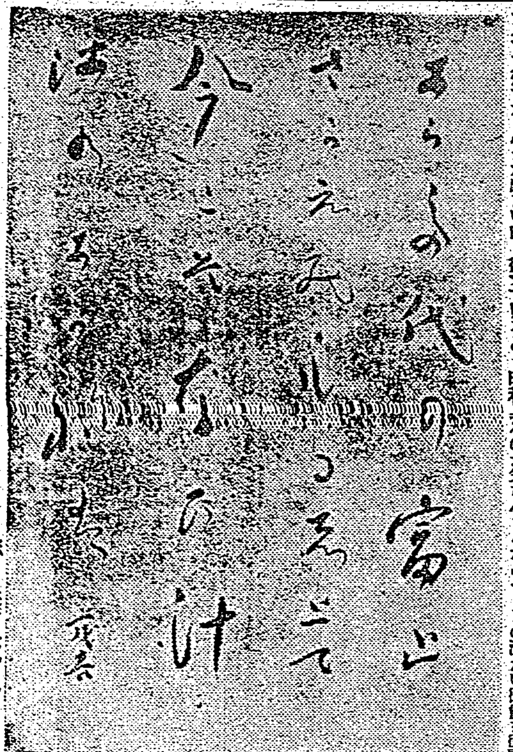
私達は墓の前に立つた

「總さまが、肥後の方に向けて埋めてやりましたよ」とお婆さんが言つた、肥後の學校で、學業半ばに斃れた由利君の無念を推し量つての取計らひだつたであらう、そこに立つて眺めると、この墓地を取り圍んで、遠くにはコバルト色の山が幾重にも重なり、肥後の方角も勿論一面の山波だつた

私達は座敷に通されて、お婆さんが心づくしの溫かい御飯を御馳走になつた、山里らしく干魚が膳にのぼつてゐた

別れにのぞんで、お婆さんは半紙を取り出し、硯を擦つて、その上へ私達の名前を書かせた、朝鮮の兩親のところへ知らせてやるといふのだ、それからお婆さんは、軒に吊した吊し柿を取つて、食べながら行つてくれと言つた

私達は吊し柿を食べながら由利君の故鄕を辭した、そして、先行の友人達に合ふべく、羅漢寺へ急いだ



あらた代の富士さかえのしるしとて今こそなびけ海のあかね汁
茂吉

あらた代の高山さかえのしるしとて今こそなびけ海のあかね汁　**齋藤茂吉**

ラヂオ

朝【七・一〇】朝の挨拶、ラヂオ體操【七・三〇】朝の修養（京都）萬葉人の生活に學ぶ（二）文學博士澤潟久孝【七・五〇】ニュース（臺北）【八・三〇】朝の音樂（レコード）吹奏樂ドイツ行進曲集…ドイツ大吹奏樂團【九・一五】內臺定期船消息、砂丸基隆入港時刻接續列車時刻のおしらせ…鐵道部運轉課發表【一一・〇〇】日用品小賣値段、殖產局介事項（局名）【一一・二〇】臨時官廳ニュース

晝【一一・五九】正午の時報（東京）【〇・〇五】和洋合奏（東京）一、長唄操三番叟（近藤信一編曲）二、長唄都の榮（吉住小三郎作曲、近藤信一編曲）…富士和洋管絃樂團、指揮近藤信一【〇・二〇】ニュース、引き續き新春野球大會（臺南）—臺南市營球場より中繼【一・四〇】國語普及講座（臺中のみ）（野球中繼ある場合は取止め）【二・〇〇】婦人の時間（東京）古典文學に現はれた正月（野球中繼ある場合は取止め）文學博士久松潛一【四・〇〇】廣東語ニュース【五・二〇】ニュース【六・〇〇】子供の時間（東京）童話三つ一、敵中のお正月…是助和夫 二、支那の子供と豚…武侯勇任 三、凧々お友達…大出庄五郎【六・二〇】子供の新聞（東京）【六・二五】講演（東京）日本經濟の前途【六・五五】カレント・トピックス（東京）

夜【七・〇〇】子供の時間（臺北）お話新年を迎へ…山口充一【七・二〇】ニュース【七・三〇】歌謠曲（東京）【八・〇〇】常磐津（東京）乘合船惠方萬歲（乘合船）…淨瑠璃常磐津文字太夫、常磐津小文字太夫、常磐津文英太夫、常磐津政太夫、三味線常磐津三蔵、常磐津市松、上調子常磐津豐之助【八・二五】漫談（東京）大角力前奏曲…西村小樂天【八・五〇】尺八合奏（東京）朝靄（中尾都山作曲）一部臨野末山、小西君山、田中允山、西村錦山、二部中島郭山、藤原成山、中村汎山、五十嵐魏山【九・〇〇】連續小說（東京）夜明け前（第二夜）（島崎藤村原作）…丸山定夫、山本安英、伴奏東京放送管絃樂團【九・四〇】時報（東京）【九・四一】ヴァイオリン獨奏（東京）一、G線上のアリア（バッハ作曲ウイルヘルミ編曲）二、夜想曲變ホ長調（ショパン作曲、サラサーテ編曲）三、小夜曲（ドルドラ作曲）四、ハンガリア舞曲（デッスマイエル作曲）…岩崎千穗、ピアノ伴奏三浦とみ子【一〇・〇〇】廣東語ニュース【一〇・二〇】臨時ニュース、今日のニュース、新聞社提供ニュース、局報、明日の放送番組發表（各局）

謹賀新春　大政翼贊　皇紀二千六百一年

曾文郡
曾文郡守　柳原陽之助
麻豆街長　島澤兼作
下營庄長　郭　曆
六甲庄長　久保西宇市
大內庄長　御澤清治郎
官田庄長　山內顯忠

曾文郡
曾文郡保甲協會
料理屋飲食店營業組合
獸肉營業組合
藥種商營業組合
古物商營業組合

曾文郡柑橘組合　組合長　柳原陽之助

曾文郡
保證責任　麻豆信用購買販賣利用組合
保證責任　下營信用購買販賣利用組合
保證責任　官田信用購買販賣利用組合
保證責任　六甲信用購買販賣利用組合
保證責任　大內信用購買販賣利用組合

臺南市南門町一ノ六六　臺南土木建築請負業組合　電話四二六番

臺南市錦町二丁目七四　三勇商會　徐寶亭　電話三八三番振替五一七三

臺南市本町三丁目　電話三五八番　合資會社　台南報印刷所　同　高雄出張所　高雄市山下町　電話二九五三番

臺南市錦町二丁目　電話三三八番　橋本紙店　臺南市大宮町二丁目　橋本紙店印刷部

臺南市　朝日印刷所　電一三三六

長榮中學校

臺南市清水町貳丁目三九ノ一　高級諸印刷　事務用文具　製圖測量器　五端第三支店　電話三七八・振替一七九

臺南市錦町二丁目（郵便局前）機械工具　建築金物　丸井金物店　猪田音吉　電話四一九番・電略〇井

臺南旅館組合

臺南菓子商統制經濟組合

臺南市田町四九番地　松田產業株式會社（電話一、一四六）

臺南市田町四拾貳番地ノ貳六　合同自動車株式會社

臺南市港町貳丁目參百七番地　株式會社　千代田商會　[illegible]

臺灣輕鐵株式會社々長　臺南州協議會員　辛西淮

臺南市大和町一丁目　臺灣織布株式會社

臺南東冰共同計算所　日本水產株式會社臺南冷凍工場　臺南製冰株式會社　朝日製冰合名會社

臺南市田町四四番地　臺南飲料水製造株式會社　取締役社長　林和　[illegible]

鴻文印刷合資會社　臺南市末廣町二丁目　電話七八五番

臺南市白金町四丁目　明石鐵工所　電話七六六番

天后建具店　洪天后　本店　臺南市田町四十二番地　[illegible]

學生服　女學生服　子供服　婦人服　防空服　各種シャツ　足袋　靴下　臺南市永樂町三ノ一七四　純新商會　[illegible]

お茶　食事　望鄉茶房　臺南銀座　電話五六五

臺南市青果荷受組合

新社庄長　景山明樹　新社庄助役　緒方正公　新社庄會計役　[illegible]
保證責任　新社信用販賣購買利用組合

臺南市西門町四丁目一三七　田口宇一

臺南市大宮町四ノ六三　石川食料品店　電話二六六

臺南市末廣町二丁目四拾貳番地　今林源之助

臺南市大正町二ノ一一九　芹澤商會　芹澤兼三郎　電話四一一番

臺南市明治町二丁目　永野鶴太郎

臺南市西門町四丁目九八番地　角屋染物店　電話一四四六番

臺南　越智寅一

臺南市本町三丁目　トミヤ　電話九七三番

臺南市壽町三丁目　臺南水飴製造販賣業組合　組合長　鄭坤山　組合員一同

臺南市明治町　義和鐵工所

臺南市白金町四丁目　臺灣弘仁株式會社　高雄出張所　[illegible]

臺南放送局　內藤二郎

⑤五端第一支店　[illegible]

臺南郵便局長　大寺春彥

臺南市錦町二丁目本局前　菓子商　紅葉軒

源裕商店　足袋製造部　臺南市壽町一ノ一九〇

新盛文印刷所　[illegible]

伊藤醫院　臺南市錦町

臺南市大宮町二丁目　中谷看板店　中谷造花部　電話七三三番

招仙閣主　李保良　臺南市田町　電話八八〇番

臺南市宮古座前　森山園茶舖　電話六〇八番

臺南靴商組合

臺南　賜成洋家具店　王天恩　王天賜

株式會社　清泉商店　臺南市本町三丁目

臺南市白金町二丁目　いろは堂商店　電話一四七四

芳稼樓主　施壽　臺南市田町　電話四一二番

臺南市末廣町二ノ一五九　玉木赤藏

臺南市白金町三丁目　株式會社　三輪養元堂　電話五九二番

臺南市清水町四ノ拾八番地　南陽堂製本所

臺南市田町　劇場　映畫　戎館　電話一三三番

臺南市錦町二丁目七十八番地　上利八十八　電話八四〇番

臺南市錦町二ノ四四　臺南珍商店

臺南市錦町三丁目二十一番地　味木小七

臺南漢藥種商營業組合　組合長　康再成　電話一三三六番

臺南市明治町三丁目一四九　川中鐵工所

臺南市本町三丁目九拾八番地　臺南八幡商店

臺南市白金町三　新杵製菓舖　電話一四三番

臺南市港町一丁目　越智鐵工所

臺南市錦町三　衣笠商會

臺南市銀座　鈴木鐵治

臺南市本町三丁目角　田中吳服店　電話四十五番

臺南市本町二丁目一四五　末廣旅館　電話一〇二四

カメラと材料　兒仁井商店　臺南市大宮町

臺南市港町四丁目　株式會社　永茂商行　電話二五七番

臺南市本町二丁目六十二番地　王汝禎

ゆり美粧院　臺南市大宮町

陳寫眞館

自動車用品　帝國商事株式會社

臺南市錦町三丁目　臺南檢番

大日本製糖株式會社
創立　明治二十九年一月
資本金　九千六百拾七萬圓
東京事務所　東京市麴町區丸ノ內
支社　臺南州虎尾郡虎尾街七〇

臺灣製糖株式會社
分蜜糖　耕地白糖　無水酒精
精製糖　グラニウ糖　角砂糖
創立　明治參拾參年
資本金　六千參百萬圓
本社　高雄州屏東市
出張所　東京市丸ノ內
一手販賣　三井物產株式會社

明治製糖株式會社
分蜜糖　耕地白糖　甜菜糖
精製糖　角糖　酒精
本社　臺南州曾文郡麻豆街
東京事務所　[illegible]

鹽水港製糖株式會社
臺南州新營

帝國製糖株式會社
臺中市高砂町拾八番地

新興製糖株式會社
高雄州鳳山郡大寮庄山子頂壹九〇番地
社長　陳啓峰

臺東製糖株式會社

裏作に小麥と亞麻
臺中州農業界に光明

[illegible]

小麥の自給自足

[illegible]

高級纖維亞麻

[illegible]

臺中州下の三大事業
大甲溪の發電工事

[illegible]

新高築港と工業港

[illegible]

横斷道と産業道路

[illegible]

小麥は州下で製粉

[illegible]

一死報國を誓ふ
臺中州知事　奥田達郎

[illegible]

"新竹一"の人びと
子福者は十三人が筆頭

[illegible]

花蓮港を基地として寶庫拓く鮪工船
舳艫相銜んで堂々出帆

[illegible]

皇國民たるの責務を果したい
臺南州知事　一番ヶ瀬佳雄

[illegible]

萬邦無比 [illegible]

共榮圏の [illegible]

果敢なる [illegible]

植民史上 [illegible]

所以の途 [illegible]

謹賀新體制新春

藤山勝彦

虎尾郡二崙庄大庄
廖泰惠興亞合名會社
社長　廖三郎
專務　廖裕紛
外社員一同

虎尾郡守　矢上純雄

虎尾街長　大村廉吉

保證責任　虎尾信用購買販賣利用組合

虎尾郡虎尾街（電話一〇五番）
昭文社印刷所

虎尾街虎尾（電話四九番）
振裕記合名會社

合名會社　日興商店

新化郡守　古川儀六

嘉南大圳組合新化郡部
郡部長　古川儀六
主事　布川雄二郎
鈴木彌吉
上原靖夫

臺南州業態別組合新化郡支會
役職員一同

新化郡産業組合
保證責任　新化信用購買販賣利用組合
保證責任　善化信用購買販賣利用組合
保證責任　新市信用購買利用組合
保證責任　安定信用購買販賣利用組合
保證責任　山上信用販賣購買利用組合
保證責任　玉井信用購買販賣利用組合
保證責任　楠西信用販賣購買利用組合
保證責任　南化信用購買販賣利用組合
保證責任　左鎭信用購買販賣利用組合

永義製糖株式會社
外職員一同

新化軌道株式會社

臺南州新化郡農事組合

臺南州新化郡畜産組合助成會
外職員一同

臺南州新化郡水利組合
外職員一同

新化郡獸肉營業組合
外役員一同

中坑農事實行組合
外役員一同

臺灣南部無盡株式會社嘉義支店
支店長　小野茂三郎

嘉義消防組事業部
組長　津久井半二郎
主任　寺島俊一

嘉義　土木建築請負業組合
電話二二三五番

嘉義市産業組合研究會

嘉義市　永登令治

嘉義　松原嘉繼
電話二一〇七番

嘉義郡水利組合

嘉義座
笠松耕一
木村義夫

嘉義自動車株式會社
社長　林抱

臺灣煙草賣捌人組合
嘉義支部

臺灣酒類賣捌人組合
嘉義支部

嘉義支局管內專賣品小賣人聯合會

株式會社丸イ運送店
嘉義合同運送株式會社
臺灣倉庫株式會社嘉義出張所
臺灣運輸株式會社嘉義支店
株式會社日本商船組嘉義支店
日本通運株式會社嘉義支店

有限責任　嘉義商工信用組合

嘉義　中野ふし香
電話二四五五番

嘉義　宇野貞雄

臺灣電力株式會社指定工事所
藤田電氣工業所
藤田タマ
電話一七四〇番

財團法人　嘉義地方振興協會
自動車部

天龍木材嘉義出張所
所長　太田博三

洋品百貨
伊ケ崎商行
電話二〇〇九番

新化郡玉井庄玉井
公醫　高永寧

新化郡玉井庄玉井
厚生堂
高須賀齒科醫院

新化郡玉井庄玉井
呂祖蓁
電話十番

明朗閣料理店

新化郡理容術營業組合

黎明樓料理店

富士樓料理店

日華生命保險株式會社代理店
錦瑞查商店

司法代書人　鐘木琴

王追

新化郡貨物古物商組合

新化郡　山上庄役場
庄長　清水要吉

新化郡　玉井庄役場

新化郡　楠西庄役場

新化郡　南化庄役場

新化郡　左鎭庄役場

新化郡醫師會
善化分會一同

上與原朝光

周獅

江財旺

小賣商組合
鄭助

今吉睦雄

春源製米工場

昭和樓宴會場

玩春閣料理店

陳福

新化街役場
街長　押川貞藏

善化街役場
街長　小野邦彥

安定庄役場
庄長　山本二郎

新市庄役場
庄長　前田龍雄

玉春樓料理店

善化新舞臺

とみや呉服店

臺南州會議員　梁道

臺南州會議員　小埼留三郎

司法代書人　林登祿

新化郡貨物古物商組合

廣源米粉合資會社
代表社員　林慶然

保證責任　土庫信用購買販賣利用組合

土庫農業組合

李橙

崙背商工會

李慶樟

楊門李

崙背庄長　佐藤雅雄

東興商店

豐盛商店

復勝商店

齒科醫院　李其雄

林文欽

豐茂商店

振山眼科院

旭文具店

郭產婦人科醫院

丸茂百貨店

洪珍

中和ホテル　王子宏

上池醫院

趙石君

嘉南ホテル

源昌商行

義宸閣

大同自動車合資會社

羅山信用組合

日向屋本店

牧產婦人科醫院

嘉義　永島ノブ

嘉義宿屋組合

嘉義檢番

嘉義　三輪野フサ

興和鐵工所

三五商會

翁內科醫院

永井美輔

篠崎喜代吉

池田密太郎

瀬上寅雄

株式會社　新高製作所

中林鐵工所

嘉義木材商組合

南座

株式會社　新興鐵工所

合名會社　瑞益商店
電話二五一一番

陳獻鐵工所
電話三一〇五番

嘉義建築信用購買利用組合

嘉義銀座建築信用購買組合

嘉和建築信用購買利用組合

北門郡下
佳里街長　高文瑞
西港庄長　中村生臣
七股庄長　細田喜作
將軍庄長　桝田良榮
北門庄長　陳三吉
學甲庄長　陳華宗

虎尾郡食料品製造加工業組合

虎尾郡水利組合

保證責任　西螺信用購買販賣利用組合

マルソウ醬油釀造本舖

西螺專賣品小賣人組合

保證責任　二崙信用購買販賣利用組合

保證責任　崙背信用購買販賣利用組合

臺西自動車株式會社
西螺自動車株式會社

湖口信用利用組合

臺南州新化郡下保甲役員一同

陸鷲部隊も餅搗き

【〇〇基地にて宮浦特派員發】雨の日も風の夜も翼にまかせて大空をかけめぐり、敵機と見ればやにはに飛びついては叩き落し、或は陸上部隊の掩護に、輸送ルート遮斷に容赦なき陸の荒鷲達にも四年目の春が訪れんとしてゐる今日は〇〇飛行基地丸田部隊の餅搗きだ、操縦桿をにぎる手に輕くふり上げられた杵は力餘つて石臼もつき割りさう、丸田部隊長そばから掛聲るなよと注意する位はち切れる樣な元氣さだ、すぐ隣の飛行場からきこえて來るゴウ〳〵たる爆音を相の手に元氣な杵の音がペツタンコ〳〵とひびき渡る、臼の傍に手水打つ兵ちやんのリウ〳〵たる腕には見事な筋肉の隆ものが力の入る度におどつてゐる、今空から下りたばかりの飛行士連が「ドレ俺に搗かせろ」と飛行服もぬかずに杵の爭奪戰をやつたり、もうここだけは春が訪れた樣な和やかさである

佛陀の國・泰國の正月

信仰による行事に終始

【盤谷發同盟】古き歴史と傳統を有ち、珍奇で印象的な佛教寺院によつて世界に識られてゐる泰國、永き歴史をもつとは云へ亞細亞の東南一角に白皙の侵略を受けつゝよく國土を護つて來た王國が新らしき

時代に 目覺して「泰人の泰國」再建に雄々しくも立ち上つた、幻想的な泰の國の自覺が大地を蹴立てたのである、首都バンコツクの高層な寺院を連ねる街、メコン川に沿ふ道は過去幾世紀の歴史を破つて毎日のやうに學生の示威行進が行はれ國民の愛國心をそそり立ててゐる、傳統と因襲をかなぐり捨てて新興國へとスタートした泰は曆をも斷然更新して昭和十六年（一九四一年）より太陽曆に改めることになつた、從つて從來の曆ではまだ九月であるが

改曆の ためこの九月を十二月として今年を終ることになつた泰の陰曆と新年はまことに佛陀の國のそれでいまも昔も變らぬ信仰の行事につきると云つてもよい

十二月三十一日　設壇祭
一月一日　新年祝賀祭
同二日　田作祭
同十三、四、五日　灌水の行事

設壇祭は十二月三十一日の午後三時から行はれる、この行事の始めにはスコウタイ時代にセイロンから渡來したと云はれ、六百年間も泰國内をあちこちと轉遷され、かつては「チエングマイ」にも安置されたことのあるといふ

有名な「プラブツト・レイシン」佛像の露座式である、この佛像は博物館内の佛殿から王宮の原に遷されるのであるが、藝術院博物館員は正服に威儀を正し佛像を護つて街をねり王宮の原にしづしづと進み、ここで僧侶の讀經があつて露座を終るのであるが、佛像の模型一體を側にもち出して參詣者に金箔を張らせる行事などもある、この露座が濟むと夕方から芝原の周圍七八ヶ所には舞臺が設けられ、藝術院を始め各地から奉納された芝居が色とりどりに行はれ、觀衆は

新春を 迎へる歡びに浸るのである、わが日本の除夜の鐘に代るものとして昔は一晩中王宮の前で大砲を鳴つて魔除けをやつたものであるが明治四十四年以來廢止となつてしまつた、一月一日、この日は朝まだき、暗いうちから民衆は御飯や果物、卵、菓子、煙草その他を山のやうにお盆に載せて王宮前の芝原へと押し寄せるのである、芝原には數千の托鉢僧が既に整つてゐる、その托鉢僧に民衆は各自自慢の供物をお布施するのであるが、廣い芝原は各地から集つた善男善女のために足の踏み場もない位の

混雜ぶ りである、また元朝は各官廳吏や民家の主だつた者が王宮へ祝賀の記帳に赴く、王宮には各省別に署名の場所が定められてあり、記帳者には國王からの返禮として額入りの手帖一冊宛を下賜される、昔は高官と外交團のみの記帳であつたが新政府となつてから民衆の記帳を許したので民衆は我れ先にと王宮に出かけるため現今ではこの記帳は午前九時頃にはなくなつてしまふやうになつた、田作祭、一日王宮前の芝生ではしやいだが民衆は二日もまたこの廣場に集つて

田作祭 が行はれる、農耕物其他の品評會なども近年催かれるやうになつて文化は年を逐つて向上するがそれに交つて田舍の男女の民謠や手踊り、ザル踊り、その他の遊藝があちこちに繰擴げられて昨日にも増して大賑ひである、

正月の十三、四、五日頃になると「リンクラーム」といふ日がある、この日は灌水の行事で[illegible]する人の區別なく水を浴びせかける習慣がある、昔は親類でもとの間にしかあつたが、外人などに水をかけて問題が起つたりしていまは廢れてしまつたがまだ田舍はなかなか盛んで殊に

附近で はモーン人の深山ゐるパクラット、或はチエンマイ地方へ行くともの凄いばかりの賑ひである、バケツ一杯に充たした水を走らせる自動車の窓に向つてざんぶと投げて車内の客人を驚かせるかと思へば面白半分に盤谷からトラツクを借つて水槽を積み、チエンマイ邊りまで出かけて出來の男女に浴びせかけるもの好きさへもある、殊にチエンマイ邊の灌水は一種豪快で男は女に、女は男に行き交ふ人を手當り次第にぶつかける、感激して町に出て物に入つた殘人が背後から浴びせかけて嬉いてはねつたりする

風景は 到るところに見られるが、わけても正月の少女はどこの國でも同じで初詣の晴着にお洒落して遊ぶのであるが水を浴びるうちに濡れ鼠となつて瞬く間にかけられると婦人の濡衣は見る見る肌の形が現はれるが、彼女も手にした際の球の水が身に向つて飛びよく出り合ふさまは他國では見られぬ光景で、これをカメラに撮らうとレンズを向けたとたん濡しい男女の水合戰のそれ球を喰つて撮影者もなにもずぶ濡れになることも珍らしいことでなく泰國の正月のお正月の風景にレインコートを着て見物するなど

異風景 の見らるるものである、また、新年の催物な行事の一つに忠誠式があつた、君主時代の正月三日がその日で、高官以上の官吏は大禮服に勳章記章をきらびやかに盛裝して王城内のワツト・プラケオ寺院に參詣して忠誠文を朗讀し[illegible]列を經して本堂内に至り國王王族大臣の居並ぶ前で忠誠の神聖水を頭上に注ぎ自分の頭上に注いでから飲んで國王に二心無きを誓ふのであるが、この式は古代からの風習であつたが昭和七年新政府となつてからは廢止となつてしまつた

日本人の汕頭進出

漸增の一途を辿る

【汕頭支局發】皇軍汕頭に於ける邦人の飛躍振りは昭和十五年一月以降家族呼寄を許されて以來

顯著 となり、或は皇軍駐在地域内全般に進出し、或は皇軍と協力して經濟文化等の諸國策工作に或は中國官吏となり日華合作の先驅者として果敢な活躍を遂げてゐる、就中粤東地方の中心をなしてゐる汕頭市だけでも邦人の人口は既に二千名を突破、汕頭目拔きの場所なる外馬路、至平路、永平路、安平路、永安街、永和街の如きは邦人商社が軒を並べ粤東經濟建設に皇軍並に在汕頭日本領事館の官廳方針を嚴守して物資搬入輸出の經濟官廳に

從事 してゐるが何れも過去一ケ年半の健鬪により得た所の貴重な經驗と實力を施し、榮光に輝く昭和十六年の新春より更に新たなる活躍を期してゐると云ふ事は實にたのもしき限りである、因みに昭和十五年十一月末日現在の粤東地方の邦人の總人口は

▲汕頭市二、〇八七名▲潮州市一三九名▲澄海六五名▲澄海市一五名▲石敗一四名▲彭湃四名▲海南島二名

總計二、三三七名の多きに達し事變前の七百餘名に比し實に三倍の激增振りである、又前記邦人を出身別に分類して見ると

▲內地同胞八四〇名、臺灣同胞一、四〇七名▲朝鮮同胞八〇名

となり更に之を戸數、男女別に分類すと

▲戸數七七二戸▲男一、四〇四名（內大人一、一一五名小人二八九名）▲女九二三名（內大人六四六名、小人二七七名）

となつてゐるが邦人進出の傾向は邦人商社の總數の增加により今後とも發展の一路を辿るものと見られてゐる

汕頭進出者の職業別分類

【汕頭支局發】汕頭在留邦人の中家族手傳ひのために來てゐる家族の者を除き七百八十餘名の者が夫々一定の職業を有してゐるがそれを職業別に分類して見ると次の如く銀行、會社員が斷然首位を占め次で雜貨商、官公吏、貿易商並に商業、理髮、水道業夫々その後に次び現地色の一端を暗示してゐる

▲會社員銀行員一九五名▲貿易業一五〇名▲官公吏一〇一名▲貿易並に商業六九名▲電氣水道業其の他工業五四名▲教育關係業二〇名▲法務に關する業者一三名▲製造業一三名▲船舶從業者一一名▲車馬業一七名▲其他二二名

年頭の祝詞

歲月流れるが如く最早民國三十年の光輝ある新正を迎へることになりました、此の有意義なる元旦を迎へるに當りまして吾人は須らく過去を檢討し將來の新たなる期待を懷りお互に此の新禧を祝福するので御座います、世界の現狀を見るに恰かも怒濤逆巻くが如く複雜錯綜を極め各國共に緊張して居る此の際同文同種の友邦が東亞民族の團結を絶叫し東亞共榮圈建設の目標下に政治の調整、經濟力の強化を圖り日支兩國が相提携して東亞百年の大業建設に向つて歩調を一致にし邁進しつつあるは誠に御同慶に堪へない次第でありますが、此の過渡時代に際しましては吾人は須らく十分の覺悟がなければならぬので御座います

從來世界各國間に於ては各自の利害關係より各自種族の相互關係、又は提携の要衝を圖りつつあるも動もすれば接觸頻繁の際に於ては往々にして誤解を生じ恰かも仇敵視するが如き現象を見ることがありますが、日支兩國の今回の事變の如きも實に斯かる誤解から生じた原因であると言つて良いと思ふので御座います、今新たに茲で贅言の必要もありませぬが本來日支兩國は同文同種で固より兄弟の間柄でありますから兩國が互に相提携して一致協力を以て東亞の安泰を圖らなければならぬ宿命にあるのであります

幸哉此の度友邦日本の御心勞に依りまして茲に日支兩國の新國交條約の締結を見、同時に日滿支三國共同宣言を結びこれからは三國の本格的提携により東亞共榮圈の軸心を益々強固にし變轉極りなき世界の新狀勢に對處し新東亞の建設を一層固め延いては世界の新秩序建設に協力する覺悟を持たなければならぬので御座います、これ又目下の急務であらねばならぬのであります、希くば吾が東亞に於ける同胞一同は須らく奮起して吾々に課せられました大任務であるこの東亞共榮圈建設の大業に協力邁進して世界平和に貢献あらんことを期して止まない次第であります、これ卽ち此の歷史に輝く民國三十年の新正を迎へる最大の意義であると確信するので御座います、最後に臨みまして吾人は日支兩國の和平友好並びに東亞共存共榮の實現を祈つて年頭の御挨拶に代へ度いと存じて居るので御座います

廈門特別市市長　李思賢

自肅の中にも
新春の慶び

【廣東支局發】明朗廣東に迎へられた御正月氣分は矢張り時局を反映し自肅自戒をモツトーとして現地の祭祀各階級も加味され門松等も賑々を極め商店街も日支基本條約締結の慶祝氣分の餘韻も未だ消えず日章旗と青天白日滿地紅旗に反共の旗は東亞の新年を祝福するが如く翻へり市街は晴衣に喜びを湛へて行人が三々伍々と見られ正月氣分を漂はせ就中日本軍兵士の外出に街々は矢張り戰地色を濃化させ喜色一色に塗りつぶされてゐる

謹賀　大政翼贊新春　皇紀二千六百一年

新莊郡守　山本善正

新莊水利組合　組合長　岡本五郎

新莊街役場　街長　千葉[illegible]　助役　[illegible]　會計役　[illegible]　外役場員一同

保證責任　新莊信用販賣購買利用組合　組合長　林世南　專務理事　陳[illegible]　常務理事　陳[illegible]　外役職員一同

保證責任　山脚信用販賣購買利用組合

保證責任　三重埔信用購買販賣利用組合

大榮商行　電話六九〇七番

保證責任　新莊郡物產[illegible]組合

諸機械　華興鐵工場

文山郡木材組合　組合長　[illegible]　役員一同　組合員一同

文山郡守　泥谷帶刀

新竹木材工業株式會社

大和纖維株式會社

新竹市會議員　磯憲三　許振乾

新竹州棉加工業組合　新竹市表町三丁目二七番地　組合長　張寶清

保證責任　湖口[illegible]利用組合

保證責任　竹東信用購買販賣利用組合
保證責任　北埔信用購買販賣利用組合
保證責任　芎林信用購買販賣利用組合
保證責任　橫山信用購買販賣利用組合
保證責任　峨眉信用購買販賣利用組合
保證責任　寶山信用購買販賣利用組合

竹東郡日用和洋雜貨商組合　電話竹東參貳番

新竹州竹東街　丸善商店　電話參貳番

能高郡國姓　豐國興業株式會社

新港郡役所　職員一同

專賣局指定　新港酒類賣捌人　崎原當好

都蘭庄役場職員一同

新港庄役場職員一同

長濱庄役場職員一同

新港庄協議會員（五十音順）上吉川龜治　吳石　除永曲　陳清江　パンキス　松矢新吉　[illegible]

虎尾郡日用品食料品同業組合

代書業　劉[illegible]源　千代田生命[illegible]

虎尾郡虎尾街虎尾四七番地　株式會社　兆豐商行

土庫庄土庫　駱萬得

新營郡守　重村文一

新營街長　長野與吉

新營　劉清藤　電話三二番

內科小兒科　新營醫院

新營　仁壽醫院

新營　林齒科

新營郡[illegible]商組合

新營郡菓子製造販賣同業組合

新營郡[illegible]商組合

新營郡[illegible]商組合

新營郡木材商組合

新營郡自轉車商組合　組合長　王烈　副組合長　劉金生　外組合員一同

新營郡木工業組合

新營郡[illegible]組合

土木建築　陳其清

新營　沈乃霖

明安堂眼科

新營郡產業組合協會
新營[illegible]組合
鹽水港[illegible]組合
柳營[illegible]組合
番社[illegible]組合
店仔口[illegible]組合
菁寮[illegible]組合
鹽[illegible]購買組合
烏樹林購買組合
新營郡役所購買組合

和洋紙　臺日取次店　央知商會

和洋雜貨　高雄市鹽埕　丸市商行　電話二一八〇番

大庭鐵工所　電話二七〇一番

株式會社　永豐商店

振成材木商行

材木卸商　株式會社　福森商行

壽星館　電話二七二三番

吉井百貨店　電話代表四二〇一番

株式會社　武智鐵工所

高雄醫師會

株式會社　小竹商店

丸一組　電話四四三三・四四三四番

株式會社高雄劇場　高雄館

有限責任　高雄信用組合

高雄地所株式會社　取締役社長　楠田卓哉

高雄州自動車協會　電話八四番

高雄土木建築請負業組合　電話貳四四六番

保證責任　新高建築信用購買利用組合

有限責任　興業信用組合

臺灣地所建物株式會社　高雄出張所　基隆出張所

日本通運株式會社　高雄支店

陳中和物產株式會社

株式會社　施合發商行　高雄支店

高雄中央卸市場株式會社

昭和運送株式會社

保證責任　高雄文化建築信用利用組合　電話參八〇貳番

高雄市材木商組合

金子博

高雄市食肉營業組合

富重造船鐵工所

山牛商店

高砂信用組合

古川元三郎

安藤藥局

高雄市組合銀行

金鵄館

高雄市佛教會

關山郡教育會

關山郡守　佐野庄一郎

關山郡庶務課職員一同

恒春郡守　田中貫次
庶務課長　平田爲良
警察課長　白水松次

恒春街長　深川佐市
車城庄長　許順吉
滿洲庄長　余雲祥

恒春信用購買販賣利用組合
車城信用購買販賣利用組合
滿洲信用購買販賣利用組合

花蓮港バス株式會社

大和木材商行　電話五三七番

小川自轉車商會　電話三四三番

保證責任　花蓮港定置漁業組合

花蓮港理髮營業組合

花蓮港近海運輸株式會社

南國貨業合資會社

花蓮港代理店　共運組

花蓮港吳服服裝雜貨商組合

花蓮港吳服雜貨商組合

臺灣酒類賣捌人組合東部支部
花蓮港　中村松之助
鳳林　兒島[illegible]
玉里　久保[illegible]
關山　押川[illegible]
臺東　渡邊[illegible]
新港　崎原當好

花蓮港專賣品小賣人組合聯合會
花蓮港酒類煙草食鹽小賣人組合
鳳林酒類煙草食鹽小賣人組合
玉里酒類煙草食鹽小賣人組合

臺灣煙草賣捌人組合東部支部
花蓮港　植田末八
鳳林　島崎五郎
玉里　大對貫助
臺東　赤城佐太郎

臺灣食鹽元賣捌人組合東部支部

花蓮港煙草耕作組合

花蓮港土木建築協會

保證責任　花蓮港倉庫信用利用組合

花蓮港廳食料品配給組合

花蓮港食料品卸商組合

花蓮郡食料品小賣商組合

花蓮港燃料株式會社

タロコ商事株式會社

花蓮港纖維工業株式會社

花蓮港洋服商工組合聯合會　電話五六九番

花蓮港醬油味噌工業組合

花蓮港陶器荒物商組合

花蓮港菓子商組合

花蓮港紙文房具商組合　花蓮港市黑金通六　電話三〇一番

松竹、日活京都封切　筑紫館　電話五五番

東寶新興大都映畫常設　稻住館

花豐商事株式會社

花蓮港廳亞鉛鐵板線材製品組合
花蓮港廳石油販賣商組合
花蓮港金物建材商協會
花蓮港廳淺野セメント販賣店組合
花蓮港廳板硝子額縁商組合
花蓮港市　電話六六一番

森茂木材株式會社

有限責任　花蓮港信用組合

保證責任　東部信用組合

保證責任　花蓮港[illegible]信用組合

保證責任　有終建築信用利用組合

花蓮港廳農會

花蓮港廳畜產會

花蓮港廳水產會

花蓮港廳林業組合

花蓮港廳米穀同業組合

花蓮港廳[illegible]協會

花蓮港婦人會

花蓮港廳自動車協會

澎湖廳內地公學校　山本吉範

澎湖廳馬公保正　黃財陸

聯昌洋服店　邱世昌

養生堂

南道商會

丸石果物屋　電話一〇二番

益進商店

金造船鐵工所

新月樓　電話三〇番

山水樓

サカーエ　陳佛楠

新與　蔡松根

馬公會館　電話二一〇番

松尾溫泉

明治醫院

玉里信用購買利用組合

錦城館　電話七番

東臺灣林產資源開發株式會社

東旅館　電話六六番

陽春醫院

岩田商店　電話二番

聖上陛下御親拜

嚴かに元始祭の御儀

【東京三日發同盟】新春に輝く[illegible]天皇陛下が皇位の元始を祝はせ給ふ元始祭は三日午前十時、宮中三殿に於て[illegible]天皇陛下には[illegible]御束帶[illegible]を召されて[illegible]御親拜[illegible]皇太后陛下の御代拜あり[illegible]午前十一時頃御滯りなく終へさせられた

汕頭の元旦

【汕頭[illegible]】[illegible]

島都の元始祭

各神社で嚴肅に齋行

[illegible]神社では三日午前九時より[illegible]に元始祭の式典を執行した[illegible]

伊勢神宮御造營

古例に準據して今春着手

【東京一日發同盟】來る昭和二十四年は伊勢神宮の式年遷宮に當るので[illegible]

港都の新年交禮會

【[illegible]】[illegible]

電話の統制緩和

條件付きで　遞信省の準備

【東京一日發同盟】[illegible]

臺灣神社の元始祭

[illegible]

六日大宮御所へ兩陛下行幸啓

御揃ひで初春の御團欒

【東京三日發同盟】天皇、皇后兩陛下には來る六日午前十一時[illegible]御出門、大宮御所へ[illegible]されたとき[illegible]され、新春のひと時を[illegible]

臺北市職員の年始體鍊會

臺北市では元日午後一時から[illegible]

十放送局を新設

共榮圈の靱帶更に强化

【東京三日發同盟】遞信省では[illegible]

消防組出初式

火の見櫓は設けず

臺北消防組では[illegible]

北投　[illegible]

基隆　【基隆電話】[illegible]

臺灣は惠まれてる

吉川英治氏の歸京談

【東京三十一日發同盟】[illegible]

臺北高校勝つ

【東京本社特電一日發】[illegible]

芝山巖祠初詣で

[illegible]

あす初登山

臺北市では紀元二千六百一年の[illegible]

全島軟式庭球選手權大會

[illegible]

CB、臺南に快勝

[illegible]

嘉農、中商に勝つ

[illegible]

倉岡彥助氏

[illegible]

けふの天氣

臺北地方　東の和風曇後雨
北部地方　北東の和風曇後雨
東部地方　北の和風曇後晴
西部地方　北の和風晴
南部地方　北の和風晴
澎湖地方　北東の疾風曇
新高地方　北東の和風曇

座談會　日米戰はゞ？③

我に電擊秘策あり

マニラは基地たり得ぬ

山本大將　ちやうどただ一つだけ…私は今から三十年位前ですよ、明治四十三年か四年か、パナマ運河へ[illegible]、八代六郎閣下が[illegible]で、パナマ運河が[illegible]つたが、[illegible]を三十何回かやつたんです、その時にある所で私は斯う言つた、パナマ運河に依つて[illegible]太平洋は大西洋とならむと言つた、丁度いま段々とこれが近づいて來た、太平洋の[illegible]とするやうな時期にはなつて來たんぢやないか知らん、斯う思ひますね、そこで[illegible]地中海と太平洋の[illegible]の話があつたが、向ふは小さい池みたいなところだから、こちらに[illegible]向ふの[illegible]が見える、ところが廣い海になると向ふが見えぬ、見當がつかんですよ、この太平洋のどうから來るか、此の方から來るか、南の方から來るか、[illegible]あの裏の道を來るかどこから來るかまあ判らんですね、そのくらゐ[illegible]ですよ、丁度周圍の百八十度以上も廣いところに潜水艦が來るやうになるんですからね、[illegible]だと思ひます、その上、飛行機が發達して來たしね、更にまたアメリカはイギリスの方々の[illegible]を取つて居るも[illegible]て來たんだから、作戰の方、[illegible]言はれたやうに主力艦で來なく[illegible]にして[illegible]を締める、どんな手で來るか、これは判らんです、殊に海軍の[illegible]といふものはやり出すとむづかしいんです、何千浬といふ廣い海面に[illegible]を掛けて待つてゐるといふと、下手をすると[illegible]されて[illegible]をやることもある、さういふやうに自分が[illegible]をしなければならぬし、或は何千浬も[illegible]た各部隊を指揮しなければならぬので、海軍の[illegible]といふものは非常に[illegible]ですね、だからいろいろの場合が出て來るから、その時の[illegible]に依つて判斷してやるより手がないと思ひます、何處から來るか判らんので却々苦しい、日本は五・五・三の比率だが、決して劣つて居りませぬ、日本人の頭は偉いです、[illegible]上ここへこれだけ[illegible]しようといふ時には、ワシントン條約があるので、それが出來ぬ、私は[illegible]へ探つて居れば何處から來たつて[illegible]

出席者　元聯合艦隊司令長官海軍大將山本英輔△海軍少將匝瑳胤次△大日本航空會社理事海軍少將松永壽雄△內閣情報局情報官海軍中佐高瀨五郎△大本營陸軍部報道部員陸軍少佐秋山邦雄△大本營陸軍部報道部員陸軍少佐[illegible]△[illegible]△同（[illegible]）向原光雄（於東京星ケ岡茶寮にて）

やせんと思ふ

秋山少佐　併し來る方面の見當も[illegible]位つくでせう——

山本大將　此方が[illegible]を來ると思つてるたのに、[illegible]を來てしまや判らんですよ、殊に、新しい基地——英米の共同に依つて、易々と來ることがあるかも知れん

秋山少佐　併しバルチック艦隊の場合は[illegible]といふ目標があつた譯です、今度アメリカ艦隊が主力を以て出て來る場合ですね、大體此處々々といふ限定された目標はありませんか

山本大將　それは大體ありますよ、[illegible]はつきさすが、それを言つちまつたら、[illegible]の目標を[illegible]らせるやうなもんで、それはいかんですよ（笑聲）

秋山少佐　此方が出る場合にしても目標が自然にあると思ふ、マニラなんかへ入つたところが、[illegible]がない、向ふの主力艦の[illegible]泊地といふものがあつて、ここを目標にアメリカの主力艦が出て來ると思ふ、例へば[illegible]から何も判りませんが、大體[illegible]を考へて見て、まあマニラとか、シンガポールとか、ダーウィンとかいふやうに限定されたところが出て來るだらう、日本の[illegible]を叩かうといふ場合に、やつて來ても出て來ないといふことになれば、出なきや待たうといふ目標は自然に限定されて來るんぢやないか

高瀨中佐　向ふは姿を[illegible]せずに日本近海まで姿を隱しながらやつて來る、姿を[illegible]したら潜水艦や飛行機にやられますから、ね、マニラは向ふに攻められる心配があるから、これは向ふは先づ使はないで、本土近くまで來る、此方の本土のそばまで來られたら日本へ飛行機がぶんぶんやつて來るから、そこまで日本が許してゐたら大變です

高瀨氏　その時の[illegible]にも依ります[illegible]すが、英米がどれだけの[illegible]をこの方面から持つて來て、これに[illegible]する日本の力はどの位といふ比率は——

高瀨中佐　それはですね——

高瀨氏　判らないんでせうか

秋山少佐　[illegible]少將からお話を承つたですが、第一次歐洲大戰と今回の歐洲戰爭に於けるドイツの採つてゐる[illegible]イギリス海軍の[illegible]といふものは、これは眞正面からはかないやうがない、そこでこれを[illegible]するためにはなるべく向ふの海軍が此方の陸地に近くやつて來た時にこれを飛行機を以て或は潜水艦で[illegible]、これがジェットランド海の海戰或はノルウェーに飛行基地を持つた根本の理由だ、斯ういふことを承つたんですが、同じやうに日本の海岸近くまで來た時に、[illegible]に海軍も[illegible]基地が[illegible]あるし、向ふの主力艦隊がやつて來たならばこれを迎へ擊つ、その[illegible]、海軍の[illegible]が判らんですよ

高瀨中佐　日本の海岸にやつて來てから、日本の飛行機がこれを引[illegible]て取上るといふのでは、これは遲い、今の[illegible]下のではれた[illegible]作戰はその初めに[illegible]水艦、[illegible]で向ふの主力艦を叩いて、トン〳〵になつてから決戰しよう、これは子供の喧嘩に主力艦は出ない、ところがドイツはそれを考へなかつた、此方の駒を使つてドンドン比率が大きくなつたんだと思ふ（以下二十七字削除）……

秋山少佐　斯ういふ場合はないんですか、日本の海軍は非常に強[illegible]ですから、さういふことはないと思ひますけれども、瀨戶內海或は東京灣に主力が陸[illegible]して居つて、向ふの主力艦が近寄つて來た、この場合或は母艦から飛行機を飛ばして日本の都市攻擊をやると云つたところでこの攻擊力といふものはそんなに大したものではない、恐らく母艦から飛出すところの飛行機といふものは全部が行けぬだらう、日本の陸上航空兵力といふものは[illegible]出來る、斯ういふ建前からすると、直接日本陸上攻擊といふことを、アメリカの海軍といふものは企圖しないんぢやないか

高瀨中佐　海に艦隊が入つてゐるよ、ああいふ海面に向ふの主力艦が來る時までそんなことをしてゐたら駄目です、それでは間に合はないで成功しない、本土防衛にしても母艦からやつて來た場合いきなり陸上の飛行機がそれを見てそれから舞上つたつて間に合はない、[illegible]を受された場合國內がわつと騷ぐだらうと思ふんですね

秋山少佐　さうですかね、一寸吾々陸上の者にははつきりしないところがあるんです（笑聲）

松永少將　瀨戶內海に待機するといふことは秋山眞之中將の[illegible]をしてゐた時話されたことです

が向ふを瀨戶內海へ導き入れる[illegible]秋山司令官は[illegible]を[illegible]いて、スクリユウを手入して待つ、向ふは[illegible]が艦底に引摺いて二十ノットが十三ノットしか出ぬ、そこを出擊する、ガンガン叩いて潰して行く、斯ういふ事も一方法ですよ、日本の海軍も飛行機も勿論さういふ場合があつたら飛行機の母艦を沈めてしまふでせうが……

秋山少佐　日本近海まで來て、直接に[illegible]を[illegible]することになつたら、その[illegible]といふものは非常に大きい

母船越タツ儀病氣療養中ノ處一月二日午後五時十五分死去致候葬儀ハ四日午後三時三橋町齋場ニ於テ相營申候
追而時局柄御香華御供物等堅ク御辭退申上候萬一御居被下候共失禮乍ラ御返上可仕候間御宥恕被成下度候
昭和十六年一月三日

男　船越慶亮
男　船越晉太郎
男　江原正一
親　戶越節昇
　　武水一郎
　　波多藤三郎
　　鈴野五嘉一
　　古木四郎
　　外澤大二
親戚一同

新竹州立新竹中學校教諭鈴木篤三郎儀藥石不效[illegible]三十日午後六時逝去致[illegible]に付[illegible]告別式は一月四日午後一時新竹市[illegible]於て執行仕候
昭和十六年一月三日
新竹市東門町一ノ一〇
妻　鈴木ちゑ子
代理　鈴木進一郎
親戚代表　津田健二郎
　　　　　深井定次郎
　　　　　大塚米次郎
　　　　　西田賴之助
民友人會總代　與治郎

大阪商船　臺灣出帆

[illegible]

日本郵船　基隆出帆

大和丸　門司神戶行　一月十四日後五時半
富士丸　[illegible]　一月六日正午十一時
靈取丸　[illegible]　一月十日前五時半

東亞海運　基隆出帆

[illegible]

辰馬汽船　基隆出帆

辰鳳丸　[illegible]
辰春丸　[illegible]

大連汽船　基隆出帆

[illegible]

謹賀新體制新春

花蓮港廳　高原逸人
花蓮港市役所　田中鐵太郎
花蓮港專賣支局　手東省吾
花蓮港埠頭事務所　美濃部良晴
花蓮港鐵道出張所　東春一
花蓮港郵便局　職員一同
東部水產株式會社　前根壽一
東部水產株式會社　刈米義
花蓮郡役所　村田安治郎
鳳林郡役所　五十嵐重藏
花蓮港醫院　春田操
吉野庄役場　清水半平
花蓮港廳職員一同　外支聽　山本哲志
濱野謙三
花蓮港中學校　職員一同
花蓮港女學校　職員一同
花蓮港工業學校　職員一同
花蓮港小學校　職員一同
明治公學校　職員一同　花蓮港市
昭和公學校　職員一同　花蓮港市
玉置商事株式會社
花蓮港物產株式會社
吉村商店　花蓮港市
小川浩商店　花蓮港市
東臺灣青果合資會社
杉原產業株式會社　花蓮港出張所

花蓮港廳協議會員
（順序不同）
小川佐一
吉村朝
古賀川
福井富
石川末
山本三
植田長
渡邊
許聰
橫川
徐秀
柿村秀
加藤誠

花蓮港市會議員
（順序不同）
津久井忠
石田順
村田守四
置田彌
木村欽
藤齊
井木謙
野龜次
田仁一
本正二
木伸
日芳
橋豐
嘉與
川一
小藤慎
比
高
江
植
森
杉
太
岩
玉
三
古
齋琵
許桂
林應
陳

花蓮港廳勞務協會

花蓮港廳食堂團

鳳林郡道路協會

吉野村信用販賣購買利用組合

鳳林郡和田水利組合
鳳林郡白川水利組合

鳳林街役場
街長　饒永昌
會計役　廖承生
庶記　松永與四郎
庶記　林阿谷
庶記　黃新進
技手　何景錯
庶記　蔡龍
囑託　笠井寬二
助役　山崎林太郎
庶記　中尾角次郎
庶記　楊順來
庶記　陳阿森
庶記　陳質彬
庶記　邱阿來
庶記　張維昌
外職員一同

鳳林信用販賣購買利用組合
組合長　饒永昌
專務理事　吉井利一
同　徐秀春
理事　江頭清六
同　加茂忠五郎
同　兒島俊二
同　張阿榮
同　徐阿七
同　張金太郎
監事　渡壁穗[illegible]
同　小山田[illegible]
同　廖承生
同　楊順來

東臺灣產業株式會社
取締役社長　饒永昌
專務取締役　玉浦重一
取締役　徐秀春
同　中野正行
同　廖承生
同　鄭榮林
同　吉井利一
同　江頭清六
監査役　兒島俊二
同　張阿榮

"日華の春"を描く

北京にて　藤井安正

地下資源の無盡の寶庫上に眠つてゐた北支は高度防共地帯として新しき發足をした、明日を力強く約束される北支重工業地帯としての完成も近い

次代を擔つて起つ日華兩國民の大陸に躍動する潑剌たる新感觸とそはみなぎる力の泉でこそある

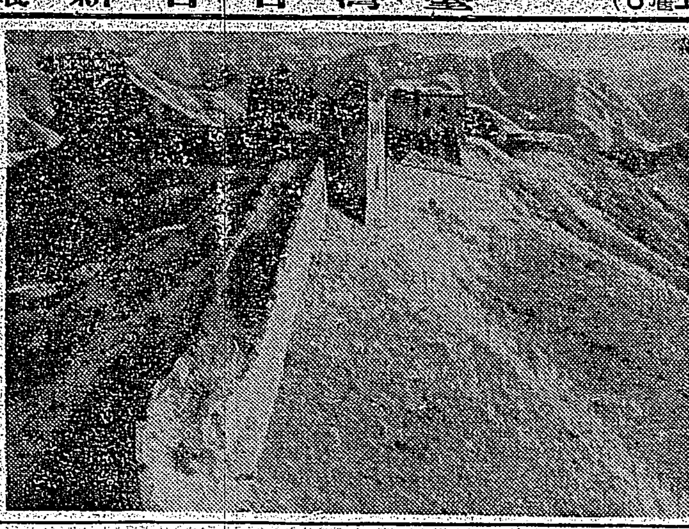
北支の新しき姿—そこには日本の翼の下に新しき歴史が築きあげられつつあるのだ

神祕の長城

侵略に備へた萬里の長城の持つ良さは北支の沙漠化を防いだ一つの砂防壁である、既に感謝されてゐる思想戰の中でも防共の上から見れば、意義深い萬里の長城たる所以であらう

悠久として眠るかの如き長城に神祕の幾多の教訓が、指針がある

仰ぎ見る長城の偉大さは建設の良き指針であり、この建設に要した支那の努力は正に次の萬々里の長城建設へ、日華の限りない提携と邁進を示してゐる、大東亞圏の確立へ長城の使命が叫ばれる



【寫眞—万里の長城—古北口附近】

新北京時代到

聖戰が生んだ新しい言葉の一つは「新北京時代來る」である

茫茫たる柳絮に悠久五千年の歴史と共に靜かな足取りと共に生きて來た北京、興亡盛衰の中國歴史の中で常に兵火の禍を免れ來つた古都北京

其處にも新しき時代の波は急速に押し寄せた

八萬在留邦人の新生活の基盤である西郊新市街は東郊重工業地帶と共にぐん〱建設の歩度を延ばしてゆく、北京城内から新市街へ通ずる大道路開鑿へ—城門の開設手術も終つた

新しき北京の創造こそは、新中國建設の縮圖である

すべてに新しく躍動する中國は「新時代到」の希望に滿ち滿ちてゐる

【寫眞は城壁の取毀し】

大草原の女王

見渡す限り大草原、ヤンた大草原、平和のシンボルの羊群がスク〱生ひ育つてゐる、ホームスパンでお馴染みの緬羊群にも、日華提携の新しい使命が下された、蒙疆から北支の緬羊大增殖へと時代は移る、やがて近く日本、朝鮮から大陸のコリデール種のお輿入れが約束された

日華兩緬羊の結ぶ第二世—寒羊こそは緬羊北支の母體となつてゆくであらう

【寫眞は—羊の放牧—張北にて】

日華の携手

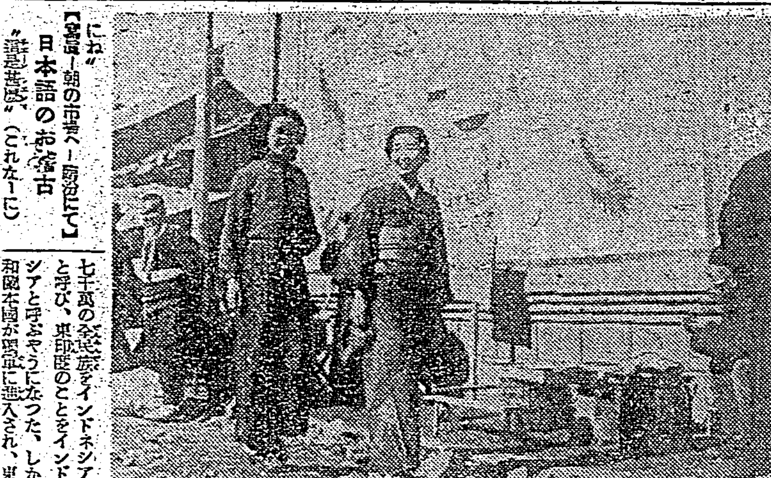
日華携手—共家赤房—の大陸母の前を和やかに朝の市場へ、日本婦人と姑娘の輕き足取りの微笑ましい風景である、山西の臨汾の片田舍に見るこの構圖こそ、日本といふ名畫工の描き出した不朽の作品であらう

お話も日華語で——

"上那兒去"（どちらへお出かけなの）

"要市場へ買東西"（買物へ）

"それでは、そこらまで御一緒にね"



【寫眞—朝の市場へ—臨汾にて】

日本語のお稽古

"這是甚麼"（これなーに）

"うん〱これか" "這是日本的飛機" これは日本の軍用飛行機さ！

"曖牙！" まあー

根強く植つけられてゐた抗日的科目も教科書から一掃された、明朗化された新教科書から、日本の雜誌から學ぶ中國の子供達は"曖牙"を連發する、新時代に生きる彼女、彼らには新知識への欲求が極めて深い

家庭に、小學校に教師をとる日本人に、日語の會話となると名狀し難い「力」と「熱」がこもつてくるのだ

【寫眞—北京の或家庭】

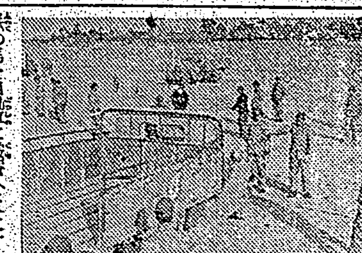
伸びる自動車動脈

南船北馬の「北馬」は既に過去の獸だ、時代の波は北支から驛[illegible]の馬を自動車に轉換へさせた

ぐん〱伸びる自動車路線にガソリン節約時代の難があるかつて——

どうして、無盡藏の石炭は自動車のガソリンを驅逐して、正に石炭自動車時代の出現である、那發總站の智慧者さんも

「日本も滿洲も石炭自動車時代來さ、北支の無煙炭で自動車をスッ飛ばすのだよ」と大きな口をぐつと結んだ



【寫眞—華北交通鐵路學院の實習】

理想を求める蘭印の女性たち

竹井十郎

インドネシア

蘭領東印度といへば誰でも知つてゐるがインドネシアといつたのでは知つてゐる人は極めてまれである、その蘭領東印度のことが即ちインドネシアなのである

インドネシアが東印度であるといふことは英語の辭書にものつてゐるが、この言葉が廣く用ひられるやうになつたのは、今から二十數年前、東印度の民族指導者達が東印度は東印度人の東印度であるといふ民族意識の高揚から、使ひ初めたに始まつてゐる

東印度七千萬の民族中にはいろいろの種族がある、それで從來はその種族別によつて呼ばれてゐた、例へばジャワ人、スンダ人、マカサル人、パレムバン人、バダン人、バシジャ人といつた風であつた、ところが一旦この言葉が用ひられるやうになつてからは、種族別に呼ぶことは全く廢せられ、七千萬の全民族をインドネシア人と呼び、東印度のことをインドネシアと呼ぶやうになつた、しかるに和蘭本國が獨軍に進入され、東印度が孤立の狀態になつてから、蘭印政府はこのインドネシアといふ言葉を、公式に使用してもよいと許可するに至つた

知識婦人の政治運動

元來インドネシア民族は、太古の頃から相當の開化の域に達してゐた民族で、それは近東、地中海を經て歐洲にまで知られてゐたものである、そこに西暦初年頃からヒンヅー人が渡來して、印度の文明を盛んに輸入したので、インドネシアの文化と印度の文化とが融合して、遂にインドネシア文化といふものを產み出してゐる、決して未開野蠻の民族でなく、古い高い文化をもつて來てゐる民族である、ただ歐洲人の侵入によつて、その文化が根からめちやめちやにされ、精神的にも大なる影響を受けて萎縮してゐたのである、今まではインドネシアはオランダの領土であつたので蘭領東印度といはれてゐたが、それは支配するものが、オランダ人であるが、そこに住む民族は東洋人所謂馬來人種であるのに邦人間ではこの事實が全く等閑視されてゐたのである、從つて、農業も、工業も、商業も凡てインドネシア人が從事してゐるのであるがしかし、オランダ人に限らずイギリス人、アメリカ人等が資本を持つて來ては、凡ての權利を握つてしまつてゐるので、少數の歐米人の下でインドネシア人はただ働かされてゐるのである、しかも歐米人はインドネシア人を安い賃金で使つてゐるので、どんどん金持になつてゆくけれども、インドネシア人はその反對に常に不利な立場に置かれて、貧乏を強ひられ、飢餓に瀕する狀態に置かれてゐるのである

それで今から二十數年前から、東印度を東印度人の東印度にしたいといふ民族運動が旺んになつて來たのである、そして彼方では女性もこの運動に參加して活動してゐるが、これは東亞共榮圏の一環としてのインドネシアの女性の活動として、日本女性の無視してならないことであると思ふ、ただ熱帶地方に住む遊惰放縱の民族として片附けてしまはないで、正しく彼女達を認識し、共に進む態度でなければならない

× × ×

丁度一昨年の十二月二十三日から、二十五日までの三日間バタビヤのインドネシア同盟會館に於て最初のインドネシア國民會議が開かれた、この會議で決議された諸案の中に「ガビイ」「プルデイ」「東印度婦人協會」「東印度同盟」を基礎をもつて組織する委員會に於いて運動の方針を決定す」といふ一條項があるが、これは國民運動の方針は、この四團體が協力して定めるといふのであつて、婦人團體を統轄してゐる婦人協會が、男子と一緒に國民運動に參加してゐることを示すもので、かうして現在のインドネシアの知識婦人は政治にも參加して、熱心に地位の向上と陋習打破に努力してゐるのである

誤られた結婚制度

インドネシアは回教の國である、即ちイスラム教を信ずる民族なのである、イスラム教では妻を四人までめとつてもよいといふことになつてゐるが、その本當の理由は、つまり、一人の妻に子がない場合また妻が病身にて妻の務めを果せないといふやうな場合は止むを得ないから、四人まで持つてもよいといふことが、規定であるのであつて、決して多妻主義を獎勵してゐるのでなく、原則は一夫一婦である、それが誤られて、妻を四人までは持つてもよいといふことで男子はその能力によつて、二人になり、三人になり、四人になるといふ惡習慣が行はれ、婦人の人格は全く無視され、それが幾世紀にわたつて來たために、婦人の地位は非常に低いものであつた、しかし男子に自覺が起つたやうに、婦人にもその自覺が起り、婦人本來の天職と使命に覺醒せる運動も起つてきて、種々の婦人團體は三、四十に及ぶ現狀である、しかしインドネシア婦人達が今日の地位に達するまでには、婦人達自身に相當の努力が拂はれてゐることを知らねばならないのである

先驅者・カルテニー

婦人の覺醒の先驅者はジャパラ代政官（縣知事のやうなもの）の娘でラデン・アデン・カルテニー・アルフムである、カルテニーは、一八七九年（明治十二年）ジャワのジャパラ州マヨンといふところで生れ、一九〇四年二十六歳で夭折した女性であるが、この人はまづ婦人の人格的向上、多妻主義の撲滅、結婚に關する從來の風習を改める結婚改革法などを引つ提げて起つた、つまり、現在でも惡習はなほ殘されてゐるが、當時にあつては一夫多妻の生活が行はれ、また結婚に際して、相手の男子を選ぶにも親の意見で決められるといふ風で、處女の人格は全く無視されてゐたばかりでなく、それに伴ふ惡習に苦しめられつつも一般の婦人は無自覺であつたのである

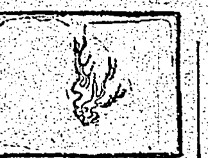
× × ×

かうした社會狀勢の中にあつてカルテニーは、そしてその自分の主張した理想的結婚をしたが、惜いことに難産が原因で「二人の男女兒を擧げて、理想的教育をしたい、そして事實をもつて範を示したい」といふ願ひも空しく、惜くも病歿されたのである

カルテニーは若くして死んだが彼の活動は、インドネシアの婦人の發醒の一大烽火となつた、カルテニーの理想と精神はインドネシア女性の間に受け繼がれ、今でもカルテニーの名は、若き女性の間に愛唱されてゐる、諸所の女學校などもその徳を慕ひカルテニーの名をそのまま校名としてゐるところも少くない、若き女性達はカルテニーの理想に生きようとしてゐるのである

婦人運動の現況

一方婦人運動は教育、社會、家庭、職業などあらゆる方面まで發展し、現在では男子の運動に劣らぬ盛況を示してゐる、問題の結婚制度も段々改められ、文化の程度の高いジャワ地方では、九五・六%は一夫一婦の生活が行はれてゐる、教育程度としては日本の比ではないが、現に歐洲の大學を卒業した法學士の婦人も三人を數へられてゐる、婦人達は最近人民參議會にオランダ婦人が一名議席をもつてゐるので、われわれ婦人にも議席を與へよとの運動も起してゐる。



三國志

（384）

（出廬の卷）

吉川英治作

矢野橋村畫

油情燈心（四）

……だが猶、相手の心は押し測れない。人のところは讀み難い。

董承はふかく要心して、

「いや許田へ御獵は、近來の御盛事ぢやつたな。臣下のわれわれも久しぶり山野に鬱を散じて、實に愉快な日であつた」

さりげなく答へると、吳碩、种輯のふたりは、改まつて、

「それだけですか」

と、詰問るやうに云つた。

「——愉快な日であつたとは、國舅の御本心ではありますまい。われわれはむしろ今も遺恨を胸に銘じてをります。——何で愉快な日であるものか。許田の御獵は、漢室の恥辱日です」

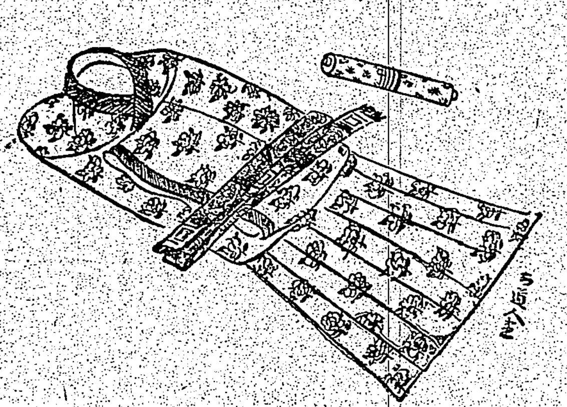
「……」

「國舅、あなたは先日、ひそかに帝のお召をうけ、大廟の功臣閣にのぼられて、その折何か、直々に密旨をおうけ遊ばしたでございませうが。……御隱しなく打明けてください。われわれとて、累代、漢の祿を喰んで來た朝臣です」

この少壯な宮中の二臣は、つい聲が激してくるのを忘れて、董承へ問ひ迫つてゐた。

——と、さつきから屛風のうしろに潛んでゐた王子服は、ひらりと姿を現はして、

「曹丞相を殺さんとなす謀叛人共そこをうごくな。すぐ訴人して、これへ相府の兵を迎へによこすであらう」



「なぜなの……」

「なぜとお問ひなさいますか。では國舅には、あの日の曹操の振舞を、その御眼に、何とも思はず御覽なさいましたか」

「……すこし、聲をしづかにし給へ。曹操は、天下の雄、隣に耳あり、もしそのやうな激語が洩れ聞えたら」

「曹操が何でそんなに怖ろしいのですか。雄は雄にちがひありませんが、天の租さぬ奸雄です。われ等、微力といへども、忠誠を本義とし、國家の宗廟を護る朝廷の臣から見れば、何等、懼れるに足る賊ではありません」

「卿等は、そんな事を、本心から云はれるのか」

「元よりこんな事は戲れに口にする問題ではありますまい」

「だが、いかに痛恨してみても、實力のある曹操をどうしようもあるまいが」

「正義が味方です。天の加護を信じます。密かに、時を待つて、彼の虚をうかがつてれば、たとへ匹夫でも、大廈高樓でも、一擧の[illegible]風に伏せぬことはありますまい、……實は、今日こそ、國舅のお胸を叩いて、眞實の聲をうかがひたいものと、ふたりして伺つた次第です」

と、大喝した。

种輯、吳碩のふたりは、驚きもしなかつた。冷やかに王子服を振向いて、

「忠臣は命を惜まず、いつでも一死は漢にささげてある。訴人するならいたしてみろ」

と、劍に手をかけて、彼が背を見せたら、うしろから、一擧に斬つて捨てん——とするかのやうな眼光で答へた。

王子服と董承は、

「いや、お心のほど確と見とどけた」

と、同時に云つて、ふたりの激昂をなだめた。そして改めて密室に移り、秘めた詔を讀して、

「これを見給へ」

と、帝の血詔と、義文連判の一卷とを、それへ展べた。

种輯、吳碩は、

「さてこそ」

と、血の御文を拜し、哭いて、誓紙に名をしるした。

折も折、そこへ、取次の家人から、

「——西涼の太守馬騰が、本國へお歸りになるとかで、おわかれの挨拶にと、お越しになりました」

と、告げて來た。

東宝
とつても大評判です！
孫悟空

今日の土曜明日の日曜はお家族總動員で！
今明日は早朝九時開場、晝夜四回興行、以後毎日正午より映寫晝夜三回
東寶文化映畫伊那節　日本ニュース同時上映
堂々九日まで
階下八十錢　階上一圓卅錢　小人大人半額稅共
東寶直營　國際館

謹賀　大政翼贊新春　皇紀二千六百一年

南投郡守　宮瀨浩
庶務課長　齋藤喜久
勸業課長　近藤友次
警察課長　大木正夫
南投街長　星萬壽雄
草屯街長　三上次郎
中寮庄長　飯村繼之助
名間庄長　島內延珪次

南投郡名間庄新街二一　吉井診療所

豐原郡豆腐製造同業者組合　組合員一同

三山炭礦　葉春

豐原　東勢厝信用販賣購買利用組合　組合長理事　外役職員一同

二崙庄三塊厝　廖大

西螺街
大承興業株式會社
大承信託株式會社
大承物產合名會社
廖溫魁
廖溫義
廖溫進

市長　大關善雄
助役　大西富逸

屏東郡守　北原三男
長興庄長　長岡潤
鹽埔庄長　山本光寬
高樹庄長　松山一次
里港庄長　菊計次郎
九塊庄長　龔天降

屏東郡道路協會

屏東商工會議所

屏東市　屏潮水利組合

屏東郡民風作興會

屏東郡米穀納入配給組合

屏東郡馬事助成會

屏東郡煙草耕作組合

屏東稅務出張所

屏東市會議員
渡邊哲　松田市三郎　小平又次　宇敷斐夫　升島戶野一　渡邊藤次郎　武田彌夫　菊池秀治　龍揖松藏
前川邦彥　郭一清　林綿順　施火宜　林朝炎　張萬任　許連　北原正知　山本實

屏東市小公學校職員一同

屏東市米穀統制組合

屏東市米穀納入配給組合

屏東市馬事普及會（屏東市役所構內）

南投街　木村醫院　電話一七番

屏東郡長興庄　長興信用組合

屏東郡九塊庄　九塊信用組合

屏東市榮町三ノ一　阿部平作

專賣局屏東支局長　北野二

屏東　廣瀨次彥

屏東市　澤田義

屏東消防組長　龍揖松藏

屏東市　映畫常設　末廣館

阿猴神社正門通り　耳鼻咽喉科　外科　花柳病科　嘉數醫院　電話五三四番

屏東平野　水害豫防組合

花蓮港市　片山寫眞館

花蓮港市　高橋分店

花蓮港市　中村回生堂

花蓮港市　醬油　東和商店

花蓮港市　出古屋商會

花蓮港市　並木學生堂書店

花蓮港市　[illegible]　東一木材商行

花蓮港市　米穀商行　吉田公司

花蓮港市　あんこ芋　惠美須屋

花蓮港市　佐藤金物店　電話一六七番

花蓮港市　梅津三郎商店

花蓮港市　青山疊店

花蓮港市　永德製瓦公司

東邦金屬製鍊株式會社

臺灣農產工業株式會社

永泉商會　饒永昌　楊盃義

花蓮港廳報國會　會長　饒永昌

東臺灣無盡株式會社　鳳林代理店

花蓮港材木商組合　電話二六九番

花蓮港荷役倉庫株式會社

東部電氣株式會社

鹽水港製糖株式會社　花蓮港製糖所

日本アルミニウム株式會社　花蓮港工場建設事務所

株式會社　朝日組

花蓮港木材株式會社

花蓮港拓殖株式會社

東臺灣無盡株式會社

東臺灣運送株式會社

東部水產株式會社

東臺灣電力興業株式會社

東海自動車運輸株式會社